



# 日本語入力システムの概要とセットアップ

---

Sun Microsystems, Inc.  
901 San Antonio Road  
Palo Alto, CA 94303  
U.S.A. 650-960-1300

Part Number 806-2798-10  
2000年3月

Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. 901 San Antonio Road, Palo Alto, California 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK7」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK7」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は郵政省が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド'98』に添付のものを使用しています。©1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DiSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(©1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。



# 目次

---

はじめに	7
パートI 日本語入力の概要	
1. 概要	15
日本語入力	15
日本語入力システム	16
ATOK12 の概要	19
「それ」がわかる ATOK	19
指示詞の照応関係の解析	19
快適な変換を実現する高度な日本語処理技術	20
リアルタイムに文書校正を支援	21
入力をサポートする便利な機能	21
複数の辞書を同時に使用する	23
UTF-8 (Unicode) ロケールでの多言語文字入力に使用可能	23
Java2 Swing アプリケーションからも使用可能	23
充実したヘルプ	24
Wnn6 の概要	24
特徴	24
かな漢字変換機能	26
学習機能	31

Wnn6 の構成	33
ATOK8 の概要	35
AI 変換機能	35
複数辞書引き機能	35
固有名詞の分類機能	35
変換時の単語削除機能	36
カラー表示のサポート	36
カスタマイズ機能	36
辞書の登録内容	36
その他の変換機能	36
ATOK7 との違い	37
cs00 の概要	38
かな漢字変換方式	38
一度に変換できる文字列	38
かな漢字変換辞書	38
補助漢字対応	38
クライアント / サーバー方式	38
パートII セットアップとファイル	
2. <b>ATOK12</b> セットアップとファイル構成	41
使用環境のセットアップ	41
その他の環境設定	42
ファイル構成	43
ATOK12 のパッケージ構成	43
ATOK12 使用時に作成または更新されるファイルとディレクトリ	45
ATOK12 の自動起動設定時に作成または更新されるファイル	46
3. <b>Wnn6</b> セットアップとファイル構成	47
使用環境のセットアップ	47
他の日本語入力システムとの同時使用	49

	ATOK8 との同時使用	49
	cs00 との同時使用	49
	ファイル構成	49
4.	<b>ATOK8</b> セットアップとファイル構成	57
	使用環境のセットアップ	57
	その他の環境設定	59
	ファイル構成	59
	ATOK8 のパッケージ構成	59
	ATOK8 使用時に作成または更新されるファイルとディレクトリ	61
	ATOK8 の自動起動設定時に作成または更新されるファイル	62
5.	<b>cs00</b> セットアップとファイル構成	63
	使用環境のセットアップ	63
	cs00 のパッケージを後から追加する場合の注意点	65
	ファイル構成	65
	cs00 の使用するファイルと関連するプログラムとの関係	68
	以前のリリースより移動したファイル	70
	パートIII ユーザー登録単語および環境ファイルの移行	
6.	<b>ATOK12</b> への移行	73
	ATOK8 の辞書に登録した単語を ATOK12 で使用する	73
	ATOK8 の環境設定ファイルを ATOK12 で利用する	75
	cs00 の辞書に登録した単語を ATOK12 で利用する	76
7.	<b>Wnn6</b> への移行	79
	ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-Delta、EGBRIDGE の単語情報を Wnn6 で使用する	79
	ファイル形式	81
	単語ファイル	81
	書式ファイル	85
	Wnn6 テキスト形式辞書	91

ログファイル 92

**8. ATOK8 への移行 95**

ATOK7 の 辞書に登録した単語を ATOK8 で利用する 95

ATOK7 のキー操作環境を ATOK8 で利用する 97

ATOK7 の環境設定ファイルを ATOK8 で利用する 99

cs00 の辞書に登録した単語を ATOK8 で利用する 105

**A. 入力サーバーの入力スタイルの設定 107**

スタイルの設定 107

前編集 (preedit) スタイル 108

状態表示 (Status) スタイル 119

索引 125

# はじめに

---

このマニュアルでは、Solaris™ 8 日本語環境で使用できる日本語入力システム (ATOK12、Wnn6、ATOK8、cs00) の概要とセットアップ方法について説明します。各日本語入力システムを使った日本語の入力方法、辞書ファイルの詳細情報、カスタマイズの方法などについては、各日本語入力システム固有のマニュアルを参照してください。

---

## 内容の紹介

パート I, 日本語入力の概要

### 第 1 章

日本語入力システムの概要と、各日本語入力システム (ATOK12、Wnn6、ATOK8、cs00) の特徴を説明します。

パート II, セットアップとファイル

### 第 2 章

ATOK12 の使用環境のセットアップとファイル構成について説明します。

### 第 3 章

Wnn6 の使用環境のセットアップとファイル構成について説明します。

### 第 4 章

ATOK8 の使用環境のセットアップとファイル構成について説明します。

## 第 5 章

cs00 の使用環境のセットアップとファイル構成について説明します。

パート III, ユーザー登録単語および環境ファイルの移行

## 第 6 章

日本語入力システム ATOK8 または cs00 から ATOK12 に切り替える際、以前の日本語入力環境をできるだけ維持するための手順や制約事項について説明します。

## 第 7 章

ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-Delta、EGBRIDGE でユーザーが登録した単語情報を Wnn6 で使用する方法と、移行時に使用するファイルの形式について説明します。

## 第 8 章

日本語入力システム ATOK7 または cs00 から ATOK8 に切り替える際、以前の日本語入力環境をできるだけ維持するための手順や制約事項について説明します。

## 付録 A

日本語入力時に設定できる入力スタイルについて、入力サーバー ATOK8 を使用した実例をもとに説明します。

---

## 対象読者

Solaris 8 の日本語入力システムを初めて使用するユーザーと、日本語入力システムのセットアップ作業を担当するシステム管理者 (スーパーユーザー) を対象としています。

---

## 読んでおく必要のあるマニュアル

『Solaris 8 ご使用にあたって』



---

## 関連マニュアル

- 『Wnn6 ユーザーズガイド』
- 『Wnn6 上級ユーザーおよびシステム管理者ガイド』
- 『ATOK8 ユーザーズガイド』
- 『cs00 ユーザーズガイド』

---

## Sun のマニュアルの注文方法

専門書を扱うインターネットの書店 Fatbrain.com から、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルをご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www1.fatbrain.com/documentation/sun> の Sun Documentation Center をご覧ください。

---

## Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索をおこなうこともできます。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。  system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% <b>su</b>  password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> `^#define \ XV_VERSION_STRING`

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェルプロンプト

```
system% command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト

```
system$ command y|n [filename]
```

■ スーパーユーザーのプロンプト

```
system# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

---

## 一般規則

- このマニュアルでは、「IA」という用語は、Intel 32 ビットのプロセッサアーキテクチャを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Celeron、Pentium III、Pentium III Xeon の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。



パートⅠ 日本語入力の概要

---



## 概要

---

この章では、日本語入力システム全体の概要と、ATOK12、Wnn6、ATOK8、cs00 の各日本語入力システムの特徴を説明します。

---

### 日本語入力

Solaris 共通デスクトップ環境 (以降「Solaris CDE」とします) と日本語 OpenWindows 上では、日本語入力システムを利用することで日本語を入力することができます。日本語入力システムは、入力サーバー、かな漢字変換サーバー、かな漢字変換サーバー・インタフェースモジュールや辞書ファイルメンテナンスツールといったプログラムにより構成されています。Solaris 8 では日本語入力システムとして、ATOK12、Wnn6、ATOK8、cs00<sup>1</sup> を提供しています。どの日本語入力システムを使用するかによって日本語の入力方法・変換方法が異なります。この節では、各日本語入力システムの概要と、日本語入力システムに共通な事柄について説明します。入力方法、機能など各日本語入力システムに固有な事柄については、この章の各日本語入力システムの概要と、『ATOK12 ユーザーズガイド』、『Wnn6 ユーザーズガイド』、『Wnn6 上級ユーザーおよびシステム管理者ガイド』、『ATOK8 ユーザーズガイド』、『cs00 ユーザーズガイド』を参照してください。

---

1. cs00 はかな漢字変換サーバーですが、便宜上「日本語入力システム」として記述します。

## 日本語入力システム

日本語を入力する場合、日本語入力システムが使われます。日本語入力システムの構成を図 1-1 で示します。

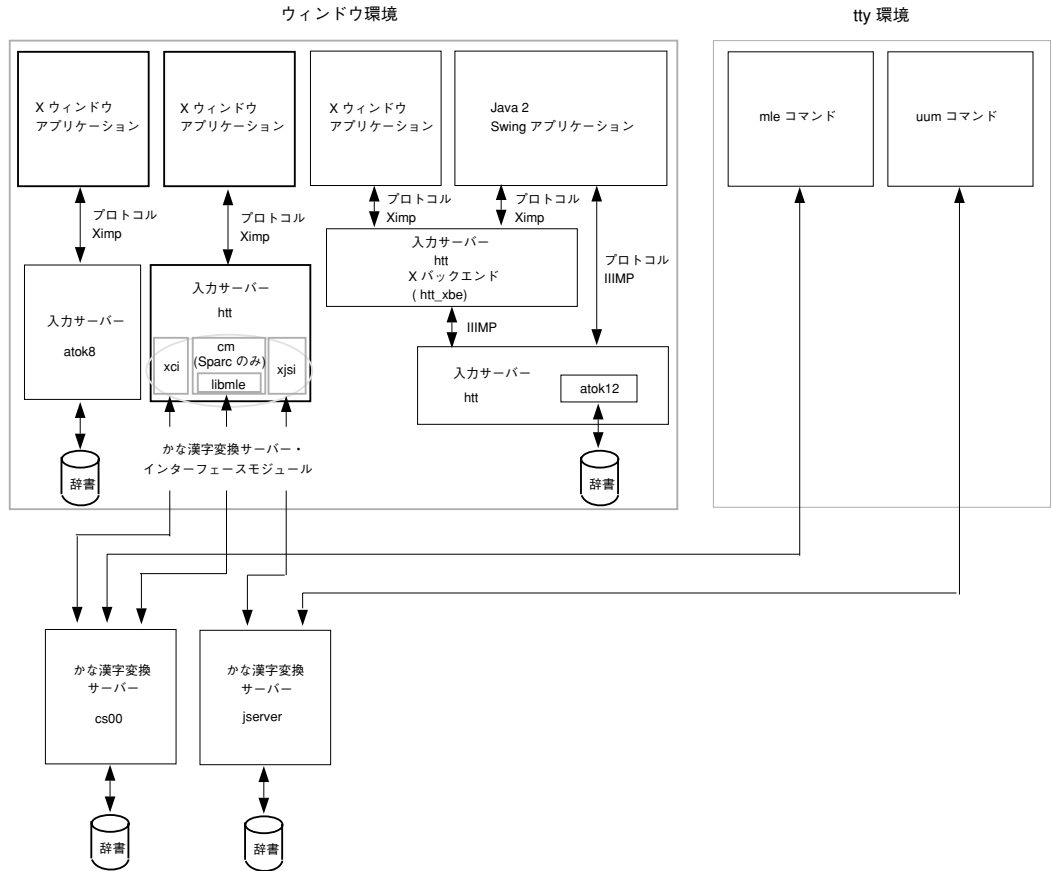


図 1-1 日本語入力システムの構成図

### 入力サーバー

ウィンドウ環境で日本語を入力するには、入力サーバー **htt** または **atok8** を使用します。



## かな漢字変換サーバー・インタフェースモジュール

Solaris 8 のウィンドウ環境では、入力サーバー `htt` により、かな漢字変換サーバーである `jserver` (`Wnn6`) と `cs00` が利用できます。かな漢字変換サーバー・インタフェースモジュールは、`htt` と変換サーバーとの間を仲介します。

`jserver` を使用する場合、`xjsi` をかな漢字変換サーバー・インタフェースモジュールとして使用します。`cs00` を使用する場合は、`xci2` または `cm` が利用できます。これらのインタフェースモジュールは、`htt` によって動的に読み込まれ実行されます。また、キー割り当てなど各種カスタマイズの機能はこれらのインタフェースモジュールが提供します。

### ***xjsi***

入力サーバー `htt` から `Wnn6` の変換サーバー `jserver` を利用するためのプログラム (かな漢字変換サーバー・インタフェース) です。個人環境を標準から変更していない場合は、入力サーバー `htt` が自動的に起動され、このプログラムが使用されます。詳細は、`xjsi(1)` のマニュアルページを参照してください。

### ***xci***

入力サーバー `htt` から変換サーバー `cs00` を利用するためのプログラム (かな漢字変換サーバー・インタフェース) です。日本語入力システムとして `cs00` を利用するように個人環境を設定すると、このプログラムが使用されます。設定方法については、第 5 章を参照してください。`xci` の詳細は、`xci(7)` のマニュアルページを参照してください。

### ***cm***

入力サーバー `htt` から `libmle` を通して変換サーバー `cs00` を利用するためのプログラム (かな漢字変換サーバー・インタフェース) です。`cm` を使用した場合のカスタマイズ機能は `libmle` が提供します。`cm` では補助漢字が扱えないなどの制限があります。またカスタマイズ機能が優れている点からも `xci` を使用することをおすすめします。なお、`cm` は `sparc` を使用している場合にのみサポートされます。

---

2. 通常は、`xci` を利用します。

### ***libmle***

*libmle* は、日本語を入力するためのアプリケーションプログラミングインタフェースを提供するライブラリです。これは、Solaris 1.x が提供する *libmle* の ENV-CM インタフェースを利用しているアプリケーションとの互換性を保つために提供されています。xci と同じくカスタマイズ機能を提供しますが、カスタマイズ機能に関して xci の方が優れています。

### ***uum***

ウィンドウ環境ではなく、漢字表示可能な端末上でかな漢字変換サーバー *jserver* を用いて日本語を入力するためのフロントエンドとなるコマンドです。詳細は *uum*(1) のマニュアルページを参照してください。

### ***mle***

ウィンドウ環境ではなく、漢字表示可能な端末上でかな漢字変換サーバー *cs00* を用いて日本語を入力するためのフロントエンドとなるコマンドです。*mle* コマンドを使用する場合のカスタマイズ機能は *libmle* の場合と同じです。詳細は *mle*(1) のマニュアルページを参照してください。

### ***atok12***

入力サーバー *htt* から使用できる ATOK12 の変換サーバーモジュールです。詳細については、『ATOK12 ユーザーズガイド』を参照してください。

### ***jserver***

*Wnn6* のかな漢字変換サーバーです。詳細は、『*Wnn6* ユーザーズガイド』および『*Wnn6* 上級ユーザーおよびシステム管理者ガイド』を参照してください。

### ***atok8***

ATOK8 の入力サーバーであり、かな漢字変換サーバーでもあります。ATOK8 はウィンドウ環境のみで利用できます。詳細は、『ATOK8 ユーザーズガイド』を参照してください。

## cs00

cs00 のかな漢字変換サーバーです。cs00 の起動方法、利用方法などについては、『cs00 ユーザーズガイド』を参照してください。

## ATOK12 の概要

### 「それ」がわかる ATOK

#### 文脈解析変換

入力してきた文章の分野を自動的に判断し、文脈情報に基づいた同音語処理を実現しています。

現在、コンサートホールではピアノコンクールが行われている。  
各国から集まったピアニストたちが熱演を繰り広げているところである。  
いよいよ次は最後の奏者だ。

このレースも終局を迎え、ゴール地点の競技場もすぐそこに迫っている。  
しかし依然勝負は見えず、各チームの監督たちも気をもんでいる。  
いよいよ次は最後の走者だ。

#### 指示詞の照応関係の解析

文脈解析変換をさらに強化し、文章中の指示詞 (これ、それ、あれ、この、その、あの、など) と、それらが指し示す言葉との関係を適切に判断して、同音語を正しく識別します。

今日の授業の問題で一つだけとても難しいものがありました。  
○ はじめにそれを解いたのは私の友人でした。  
× はじめにそれを説いたのは私の友人でした。

「それ」が「授業の問題」を指すことを認識し、「解いた」に正しく変換します。

来年度中に大幅な減税が実施される予定です。  
 ○ その政策で国民の負担は多少は軽くなるはずですが。  
 × その制作で国民の負担は多少は軽くなるはずですが。

「その」が「大幅な減税」を指すことを認識し、「政策」に正しく変換します。

車の窓から遠くに姫路城が見えます。  
 ○ あの城はどれくらい有名なのでしょうか。  
 × あの白はどれくらい有名なのでしょうか。

「あの」が「姫路城」を指すことを認識し、「城」に正しく変換します。

## 快適な変換を実現する高度な日本語処理技術

### 格フレーム処理

文章の差異による同音語の違いを的確に判断して変換します。

そのせいふくがかのじょにあう → その制服が彼女に合う  
 そのせんせいがかのじょにあう → その先生が彼女に会う

### 係り受け関係の解析

それぞれの文節が文章の中でどのような係り受け関係になっているかを解析し、高い変換効率を実現しています。

窓を 夜が 明けるまでに 開けておきました

「窓を」が「開けておきました」に、「夜が」が「明けるまでに」に係っているのを正しく認識します。

### 文節区切りの判断

構文意味解析により、判断しづらい文節の区切りも的確に判断します。

きょうははをみがいた → 今日は歯を磨いた  
 きょうははをたずねた → 今日母を訪ねた

「磨いた」、「訪ねた」の動詞の違いにより、文節の区切りを正しく判断しています。

## ATOK12の日本語処理技術について

最先端技術の搭載だけでなく、地味に思われがちな処理も着実に強化して、より一層快適な変換を実現しています。

たとえば、ATOK12では、数字交じりの文章もより正確に変換できます。

ミュージカルの第1次選考会が午後1時より始まります。  
ホテルの2階で第2回懇親会が開かれます。

## リアルタイムに文書校正を支援

### JUST MEDDLER2 (ジャストメドラー 2)

入力・変換する時点で文章をチェックし、正確な文章の表現をサポートする JUST MEDDLER2 を搭載しています。「ら抜き表現の使用」、「文体の統一」、「同一助詞の過剰な連続」、「修飾関係のあいまい性」、「わかりにくい否定表現」、「誤用」、「仮名遣い誤り」、「商標名」、「機種依存文字」をチェックし、メッセージで注意を促します。

## 入力をサポートする便利な機能

### 以前入力した文字列を短い読みで変換する

一度入力した文字列を短い読みで変換して、効率的に入力することができます。文字列を入力したとき、途中で変換した・しないにかかわらず、意味のまとまりのある候補から選択して入力できます。確定した候補は学習されるので、コンピュータを起動し直しても、引き続き短い読みで変換できます。

## 入力した文字列を履歴から繰り返し入力する

文字列を確定したあとに同じ文字列を未確定の状態を入力できます。ATOK12では、直前に入力した文字列だけでなく、最近確定した文字列も履歴から選択して入力できます。

## 変換候補を並べ替えて目的の文字列をすばやく検索する

候補ウィンドウに表示される変換候補を、先頭の文字列または末尾の文字列が同じ単語で並べ替えることができます。人名など変換候補が多い場合に便利な機能です。

## 文字を半角または全角に統一する

文字の種類ごとに、半角・全角のどちらに変換するかを指定できます。入力中の文字や、後変換での表記を統一することもできます。

## 単語にコメントや置換候補を設定する

特定の語句が入力された場合に、メッセージが表示されるように設定しておくことができます。禁止用語や登録商標、常用漢字外などの入力の注意や、置換候補として電子メールの宛先を登録しておくなど、いろいろな応用が可能です。

## わかりやすい漢字検索

部首、総画数、読みなどの検索条件をもとに、文字パレットを使いながら視覚的に漢字検索を行います。複数の検索条件を組み合わせ設定することも可能です。

## 入力ミスを自動的に修正する

ローマ字入力時のアルファベットの入力ミスや、カナ入力時の濁点・半濁点の入力ミスを自動的に修正し、正しいかな漢字変換を行います。

- ローマ字入力時

入力文字列	変換後の文字列
まっつちやをのむ	抹茶を飲む
ちゅごくりょこう	中国旅行
こうえんおいす	公園のいす

#### ■ カナ入力時

入力文字列	変換後の文字列
らくか° き	落書き
らつきー	ラッキー
てがみわだす	手紙を出す

## 複数の辞書を同時に使用する

複数の辞書をまとめて、まるでひとつの辞書のような感覚で運用することができます。1 個のシステム辞書、1 個のユーザー辞書、そして 4 個までの補助辞書をセットで使うことが可能です。たとえば、補助辞書には医学用辞書や法律用辞書など分野別の辞書を組み込んでおくと便利です。これが 1 つの辞書セットで、辞書セットは最大 10 セットまで設定しておくことができます。

## UTF-8 (Unicode) ロケールでの多言語文字入力に使用可能

入力中に他の言語用の入力システムと切り替えて使用することにより、日本語 ja\_JP.UTF-8 ロケールなど、UTF-8 (Unicode) ロケールで多言語文字入力を行うことができます。それらのロケールでは、ATOK12 単独でも、文字パレットユーティリティの Unicode 表などを使用して各種の文字を入力することができます。

## Java2 Swing アプリケーションからも使用可能

Motif アプリケーションなどの X ウィンドウシステムのアプリケーションからだけでなく、Swing インタフェースを使って作成された Java2 アプリケーションからも利用できます。

## 充実したヘルプ

ユーティリティの操作と機能に関してだけでなく、日本語入力・変換など全般にわたる情報をヘルプを使って参照することができます。

---

## Wnn6 の概要

### 特徴

Wnn6 には次のような特徴があります。

### 高度な変換機能と学習機能

Wnn6 は、FI (Flexible Intelligence) 変換機能と FI 学習機能により、高水準のかな漢字変換効率を実現しています。

- FI 変換

文節間の接続状態を見て、最も使用頻度の高い変換を行います。

- FI 学習

確定した文節間の関係規則が、FI 関係辞書 (文節間接続関係辞書) に登録されていない場合、各ユーザーの FI 関係辞書に登録します。

### クライアント / サーバー方式

Wnn6 のシステム構成は、クライアント / サーバー方式を採用しています。これにより、複数のクライアントからサーバー側にある同一の辞書を使用することができるので、どのクライアントからも同一の学習効果を得ることができます。

また、辞書の追加などのメンテナンス作業を効率良く行なったり、効果的なオフライン学習機能をサポートすることができます。

さらに、この方式を使用することにより、サーバーにアクセスできるクライアントを制限することもできます。



## GUI ユーティリティ

辞書操作や環境設定には、GUI のツールが用意されています。Wnn6 に対して特別な知識がなくても、すべての環境の設定を簡単に行うことができます。

## 入力スタイル

ユーザーの好みに合わせて、キーの割り当てを他の日本語入力システム (cs00, ATOK8 など) に合わせるすることができます。

## 辞書

辞書は、システム (固定形式) 辞書とユーザー (登録可能形式) 辞書に分類されます。辞書のエン트리である変換文字列に対して、各ユーザーが個別の頻度情報を持つことにより、変換効率が向上します。

各辞書の特徴は次のとおりです。

- システム辞書語彙数 (約 20 万語)

システム辞書は、『岩波国語辞典第四版』をもとにしています。また、次のような独自の語彙が加えられています。

  - 現代語、話しことば
  - 複合語、複合品詞
  - 全国の主要地名、世界の国名、都市名
  - 人名 (姓と名の分離)
- FI 関係用例 (約 300 万)
- ユーザー辞書
  - 最大登録語数

システムからの制限はありません。マシンのディスク容量によります。
  - 登録読み、登録漢字文字数 (253 文字)
  - 登録読み文字種 (全文字種)
  - 登録漢字文字種 (全文字種)

単語登録、単語削除、単語検索などの辞書操作は、辞書ユーティリティを利用して簡単に行うことができます。また、他の日本語入力システム (cs00、ATOK7、

ATOK8、VJE-Delta、EGBRIDGE) で作成された辞書から、Wnn6 の辞書フォーマットへ変換する辞書コンバータもあります。これらを活用することにより、他の日本語入力システムから Wnn6 への移行がスムーズに行えます。

## かな漢字変換機能

### FI 変換

Wnn6 の FI 変換とは、FI 関係辞書 (文節間接続関係辞書) を用いて、変換文字列中の各文節間の接続度合いを調査し、接続度合いの高い候補を優先して変換する機能をいいます。これにより、高いかな漢字変換効率を実現しています。

FI 変換には次の変換機能があります。

#### ■ 格係り受け変換

変換文字列中に、格情報を持つ文節と述語文節との接続関係を考慮します。

表 1-1 Wnn6 の格係り受け変換

が格	手が挙がる / 株が騰がる / てんぷらが揚がる
を格	身長を測る / 時間を計る / 暗殺を謀る
に、には格	宿に泊まる / 駅に停まる
で格	汽車で帰る / 貴社で会う
へ格	京へ向かった / 今日へ持ち越した
より格	車より速い / 予定より早い
から格	敵から奪回する / 会から脱会する
まで格	誤解まで招いた / 五階まで昇る

#### ■ 所有格変換

変換文字列中に、所有格情報 (の格) を持つ文節と対象文節との接続関係を考慮します。

表 1-2 Wnn6 の所有格変換

かいとう	⇒	会頭の回答
かいじょう	⇒	会場の開場

■ 受身変換

変換文字列中の述語文節に助動詞「れる」、「られる」がついている場合、「受身」、「可能」、「自発」、「尊敬」の効果を判別して、格係り受け接続関係を考慮します。

表 1-3 Wnn6 の受身変換

	FI 接続関係	変換可能文字列
受身	交通を - 規制する	交通が規制される
可能	テレビを - 見る	テレビが [を] 見られる
自発	故郷を - 偲ぶ	故郷が偲ばれる
尊敬	社長が - 読む	社長が読まれる

■ 使役変換

変換文字列中の述語文節に助動詞「せる」、「させる」がついている場合、「使役」の効果を判別して、格係り受け接続関係を考慮します。

表 1-4 Wnn6 の使役変換

	FI 接続関係	変換可能文字列
使役	彼が - 答える	彼に答えさせる

■ 合成語変換

変換文字列中に、2種類の文節が接続して1つの意味を持つもの(複合語または人名)の接続関係を考慮します。

表 1-5 Wnn6 の合成語変換

複合語	⇒	集団 - 登校	会社 - 訪問
人名	⇒	福沢 - 諭吉	夏目 - 漱石

■ 修飾語変換

変換文字列中に、修飾を表す文節 (形容詞、形容動詞、副詞、連体詞) と被修飾文節との接続関係を考慮します。

表 1-6 Wnn6 の修飾語変換

形容詞	あつい△△△	熱い湯 / 厚い本 / 暑い夏
形容動詞	ていちょうな△△△ ふしんな△△△	丁寧な挨拶 / 低調な作品 不審な人影 / 不振な成績
副詞	▲▲▲もる	ぼたぼた漏る / こんもり盛る
連体詞	▲▲▲きのう	小さな機能 / 楽しかった昨日

■ 複文変換

変換文字列中に (格情報文節 + 述語文節) の組合せが複数存在する場合、それぞれの接続状態を判別して、接続関係を考慮します。

表 1-7 Wnn6 の複文変換

▽	▼
家が建ち	人が立つ

## その他の変換

FI 変換以外には、次のような変換機能があります。

■ 複合語変換

付属語を含まない候補を優先します。

- 最終使用最優先変換

同音異義語のなかで、直前に使用した単語を必ず先頭の候補に挙げます。次候補は使用した順に6個までを提示します。

- 単漢字変換

単漢字だけを使って変換します。

- 揺らぎ処理

入力文字列が辞書に登録されていない場合、その文字列と表記は異なっても、同じ発音になる別の単語が辞書に登録されていれば、その単語を候補として提示します。

表 1-8 Wnn6 の揺らぎ処理

---

こおり / こうり ⇒ 氷

---

- 長音変換

上記の「揺らぎ処理」で、表記の違いが音引き記号(ー)を含む場合をいいます。

表 1-9 Wnn6 の長音変換

---

ういんどう / ういんどー ⇒ ウィンドウ

---

- 送りがな基準処理

送りがなの基準(本則<sup>3</sup> / 送る / 送らない)を指定しておくこと、指定された基準で送りがなを決定します。

表 1-10 Wnn6 の送りがな基準処理

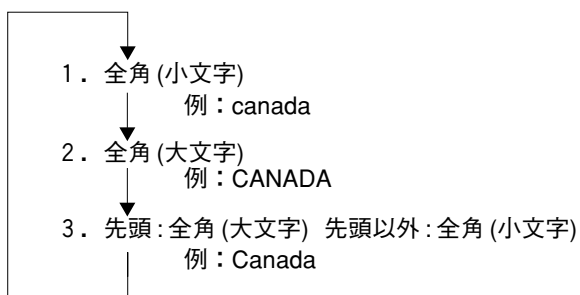
	本則	送る	送らない
おこなう ⇒	行う	行なう	行う

- Aa 変換

アルファベットを次の順で変換します。

---

3. 「送り仮名の付け方」(昭和48年6月内閣公示文二号)の本則をさします。



■ 異形字処理

新字  $\Leftrightarrow$  旧字 / 略字  $\Leftrightarrow$  正字の変換を行います。

表 1-11 Wnn6 の異形字処理

---

渡辺  $\Leftrightarrow$  渡邊

---

■ 郵便番号変換

郵便番号 (3 桁、5 桁、7 桁) からその住所に変換します。

表 1-12 Wnn6 の郵便番号変換

---

600  $\Rightarrow$  京都府京都市下京区

---

■ 電話番号変換

電話番号からその住所に変換します。

表 1-13 Wnn6 の電話番号変換

---

075  $\Rightarrow$  京都府京都市

---

■ 英単語日本語変換

英単語を日本語の単語に変換します。

表 1-14 Wnn6 の英単語日本語変換

---

COMPUTER ⇒ コンピュータ		
<hr/>		
■	かな / カナ / ローマ字後変換	
	入力文字列をかな / カタカナ / ローマ字に変換します。	
■	連濁処理	
	連濁した読みを発音通りに入力すると、正しい漢字に変換します。連濁の条件が満たされていない場合には変換しません。	

表 1-15 Wnn6 の濁音処理

---

べんきょうづくえ	⇒	勉強机
づくえ	⇒ ×	机

---

## 学習機能

### FI 学習

Wnn6 には、FI 変換 (格係り受け変換、所有格変換、受身変換、使役変換、合成語変換、修飾語変換、複文変換) で、現在の FI 関係辞書に登録されていない文節間の関係をユーザーが確定した場合に、新しくユーザーごとの FI 関係辞書に登録する機能があります (FI 学習機能)。

FI 学習機能は、「する / しない / 一時的」の各設定に切り換えることができます。

### 頻度学習

単語の使用頻度をユーザーごとに管理して、使用頻度の高い単語を変換時に優先的に表示することができます。システム辞書内の単語と、FI 関係システム辞書内の単語を管理します。

学習レベルは、「じわじわ / 基準 / すぐ / 必ず / しない」の学習レベルで切り換えることができます。

## その他の学習機能

### ■ 無変換学習

辞書に登録されていない「ひらがな / カタカナ / ローマ字」の候補が確定された場合に、自動的に辞書へ登録します。「する / しない / 一時的」の各設定に切り換えることができます。

### ■ 文節切り学習

文節の切り直しを行なって変換文字列を確定した場合に、切り直した前後の文節を学習します。「する / しない / 一時的」の各設定に切り換えることができます。

### ■ 送りがな基準学習

送りがな基準がある単語は、単語ごとに確定した規則「本則 / 送る / 送らない」を学習して、直前に使用した規則を最優先します。「する / しない」の各設定に切り換えることができます。

### ■ 接頭語学習

接頭語に「お / ご」「御」のどれを使用するか、直後の名詞ごとに学習します。「する / しない」の各設定に切り換えることができます。

### ■ 接尾語学習

単語ごとに確定した文字列の接尾語の規則「カナ / 漢字(送る) / 漢字(送らない)」を学習して、直前に使用した規則を最優先します。「する / しない」の各設定に切り換えることができます。

### ■ 一般語学習

確定した一般語の情報「ひらがな / カタカナ / 漢字」を学習します。「する / しない」の各設定に切り替えることができます。

### ■ 数字学習

確定した数字表記の種類「漢数字 / 半角 / 全角 / カンマ付き」を学習し、直前に使用した種類を最優先します。この学習は無効にできません。

### ■ 登録語自動反映

複数のユーザー辞書で登録されている同一単語を、共用辞書に反映させます。この機能はシステム管理者が設定します。

### ■ オフライン学習



変換効率の向上とディスクとメモリー資源の削減を目的に、オフラインで動く機能をいいます。不必要な単語の削除や頻度の再配置を行い、登録語自動反映モジュールを起動させます。この機能はシステム管理者を対象としています。

## Wnn6 の構成

Wnn6 は、ユーザーの入力処理を行うクライアント (Wnn6/Htt) と、かな漢字変換を行うサーバー (jserv) からなるクライアント / サーバー方式で構成されています。jserv は、辞書引き専用サーバー (wnnds) と共に使用することができます。

クライアント / サーバー方式により、複数のクライアント (Wnn6/Htt など) からのかな漢字変換要求を、1 台のマシンで動いている jserv で処理することができます。

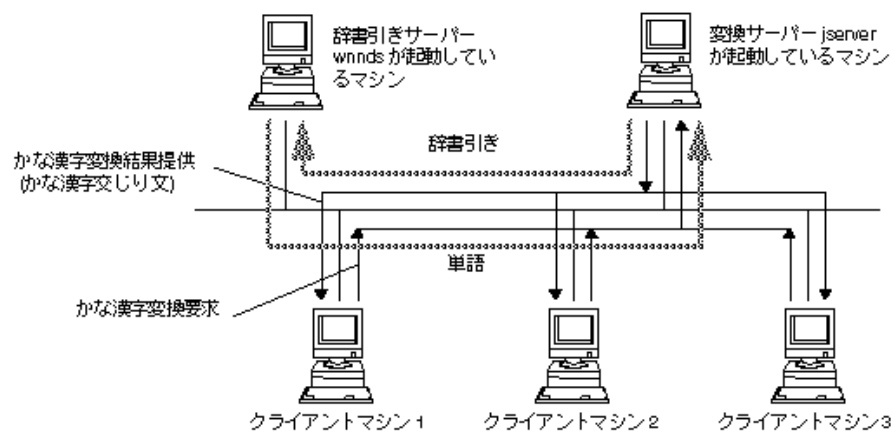


図 1-2 サーバー / クライアント方式の Wnn6

jserv のかな漢字変換機能を使って日本語入力処理を行うには、ユーザーとのインタフェース部分でアプリケーションプログラムが必要になります。このアプリケーションプログラムがクライアントに相当します。Solaris では、アプリケーションプログラムとして Wnn6/Htt と uum を提供しています。

Wnn6/Htt は X ウィンドウシステムで動く複数のクライアントに対して、日本語入力環境を提供します。Wnn6/Htt からは、Wnn6 辞書ユーティリティ、Wnn6 設定ユーティリティなどのユーティリティプログラムを起動することもできます。uum は、漢字端末や X ウィンドウシステムの `extern` などの個々のウィンドウ上で動作します。

辞書への単語登録と単語削除は、辞書ユーティリティ `wnndictutil` で簡単に操作できます。また、辞書コンバータ `wnnotow` を使って、ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-delta、EGBRIDGE のユーザー辞書ファイルを、Wnn6 でも活用することができます。

Wnn6/Htt から、キーの割り当ての設定や、かな漢字変換実行の環境 (辞書の指定、変換パラメータ値の設定など) のカスタマイズを行うことができます。その他の環境についても、Wnn6 設定ユーティリティ `wnnenvutil` を使って、カスタマイズを行うことができます。

Wnn6 のシステム構成の概略図を図 1-3 に示します。

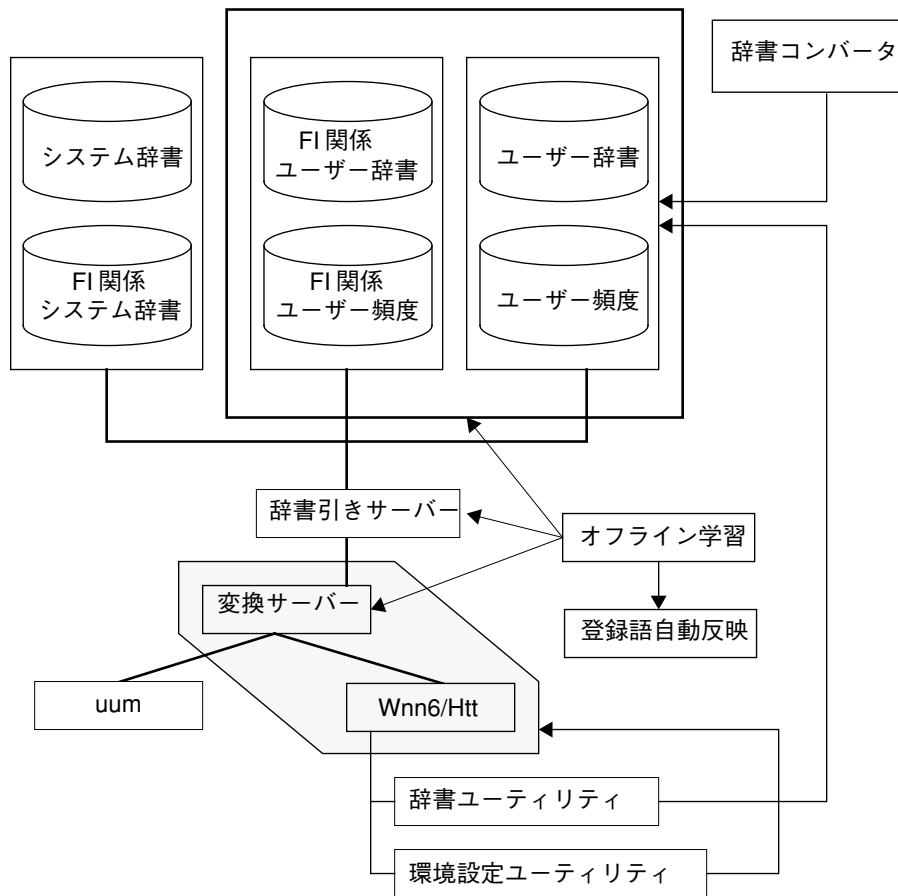


図 1-3 Wnn6 のシステム構成

## ATOK8 の概要

ATOK8 は AI(Artificial Intelligence) 変換機能を採用した変換効率の高い日本語入力システムです。操作性・性能・拡張性にも優れており、快適な入力環境が実現されています。

### AI 変換機能

ATOK8 では AI 変換機能により、入力した単語間のつながりから正しい語句が自動的に判別されます。

表 1-16 ATOK8 の AI 変換例と判別情報

AI 変換例	判別情報
「小鳥が鳴いた」、「子供が泣いた」	名詞 + 用言
「優先順位」、「有線放送」	名詞 + 名詞
「先生に尋ねた」、「先生を訪ねた」	助詞情報による判別
「読書の習慣」、「読書週間」	助詞の有無による判別
「家庭教育」、「教育課程」	単語の順番による判別

### 複数辞書引き機能

変換中に、変換に使用する複数の辞書を切り替えることができます。辞書は 10 個まで設定することができます。

### 固有名詞の分類機能

固有名詞を人名・地名・組織名・一般の 4 種類に分類してから、意味的な関係を判断して同音語処理を行います。

---

#### 固有名詞の分類例

---

「鈴木さん自身は」、「鈴木さんの自信は」

---

「田中さん」、「アメリカ産」

---

「吉田さんを訪ねる」、「吉田さんに尋ねる」

---

## 変換時の単語削除機能

変換中に、不要な単語を辞書から簡単に削除することができます。

## カラー表示のサポート

8色を利用して入力文字列やメニュー類を表示できます。GUI ツールを使用して色をカスタマイズすることもできます。

## カスタマイズ機能

ATOK8 が提供する各種ユーティリティによって、キー割り付け・表示色・ローマ字入力規則などを変更することができます。

## 辞書の登録内容

約 14 万語の単語が登録されています。また、約 50 万の AI 用例が登録されています。

## その他の変換機能

### 学習機能

学習情報を辞書本体に登録して、一度登録した情報を保持します。登録できる項目には、後変換学習・未登録学習・複合語学習・文節区切り学習があります。使用するほど変換精度が向上します。

## 大文字・小文字の変換機能

「computer」⇒「COMPUTER」⇒「Computer」のようにアルファベットの大文字・小文字を組み合わせて変換することができます。

## 未登録語のカタカナ変換機能

海外の地名や人名など、辞書にない単語を通常の変換操作でカタカナに変換することができます。

## 注目文節の移動

変換中に文節(注目文節)を示す反転カーソルを未確定の状態、修正したい別の文節に移動することができます。

## ATOK7 との違い

### 辞書の統合

従来のシステム辞書(読み取り専用)とユーザー辞書(読み書き可能)を統合しました。

### ヘルプメッセージの表示

ツールの各ウィンドウの「ヘルプ」ボタンをクリックして、簡単なヘルプメッセージを表示することができます。

### 入力サーバーと変換サーバーの一体化

一般ユーザーの権限で、変換サーバー部分を含めて動作させることができます。

---

## cs00 の概要

### かな漢字変換方式

連文節方式 (n 文節最大一致法) によるかな漢字変換方式を採用しています。

### 一度に変換できる文字列

文字列を最大 512 文字まで一度に変換することができます。

### かな漢字変換辞書

あらかじめ単語が登録されているメイン辞書と、ユーザーが後から登録するユーザー辞書があります。メイン辞書には、5 万語以上が登録されています。

メイン辞書に単語を追加登録することもできます。GUI ベースのユーザー辞書単語登録ツールが Solaris CDE 用、日本語 OpenWindows 用ともに用意されています。

### 補助漢字対応

ja ロケールでは、補助漢字 (JIS X 0212) の入力および単語登録ができます。これにより、漢字第 1、2 水準 (JIS X 0208) の 6,355 文字に加え、5,801 文字の漢字を標準で扱うことができます。また、部首入力機能を使用して、補助漢字が簡単に入力できます。

### クライアント / サーバー方式

cs00 は、クライアント / サーバー方式を採用しています。cs00 変換サーバー、クライアント間の通信には、RPC (Remote Procedure Call) を使用しています。

## パートII セットアップとファイル

---





## ATOK12 セットアップとファイル構成

---

この章では、ATOK12 の使用環境のセットアップ方法とファイル構成について説明します。

注・この章で説明する手順は、一般ユーザーを対象としています。一般ユーザーとして作業してください。

---

### 使用環境のセットアップ

複数の日本語入力システムがインストールされている場合、ウィンドウシステムのデフォルトの日本語入力システムは、次の優先順位で決まります。

1. ATOK12
2. Wnn6
3. ATOK8
4. cs00

たとえば、ATOK12 と Wnn6 がインストールされている場合、ATOK12 がデフォルトの日本語入力システムになります。

ATOK12 以外の日本語入力システムを使用するように設定されている場合に ATOK12 に切り替えるには、ワークスペースメニューから「ATOK12 に設定...」<sup>1</sup>を選択し、いったんログアウトしてから再度ログインします。

---

1. 実際には「ATOK12 に設定...」を設定すると `atok12setup` コマンドが実行されます。`atok12setup` コマンドの詳細については、`atok12setup (1)` のマニュアルページを参照してください。

「ATOK12 に設定...」の位置は、図 2-1 を参考にしてください。

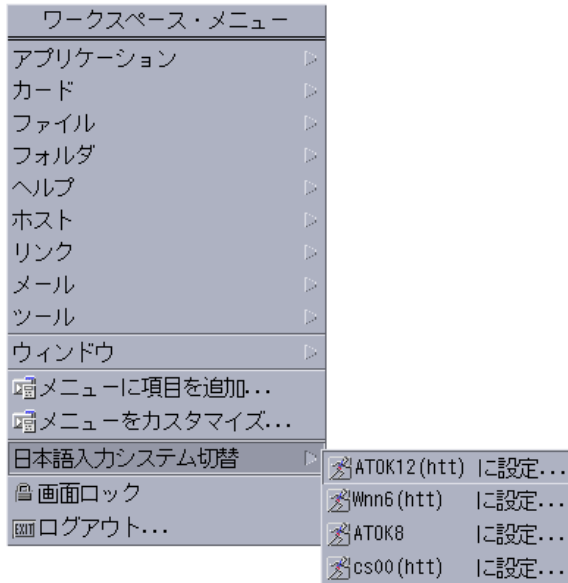


図 2-1 Solaris CDE で日本語入力システムを切り替える

## その他の環境設定

次の環境変数の設定が必要です。

### ■ HOME

ユーザーのホームディレクトリを設定します。ATOK12の動作時には、辞書ファイルや環境設定ファイルなど、/var/locale/ja/atokserver 以下のユーザーごとのディレクトリのファイルが参照または更新されます。通常、この環境変数はログイン時に自動的に設定されるため、ユーザーが手作業で設定する必要はありません。

### ■ XMODIFIERS

複数の入力サーバーが動作している中で、ATOK12を使用する場合に設定します。設定方法は次のとおりです。

#### ■ C シェルの場合

```
sun% setenv XMODIFIERS @im=atok12
```

- Bourne シェルまたは Korn シェルの場合

```
sun$ XMODIFIERS=@im=atok12  
sun$ export XMODIFIERS
```

注 - atok12setup コマンドを実行した場合のように ATOK12 だけが動作している環境では、設定する必要はありません。

## ファイル構成

### ATOK12 のパッケージ構成

ATOK12 をウィンドウシステム上で使用するには、ウィンドウシステムのパッケージ以外に、JSatsvr、JSatsvu、JSatsvw の 3 つのパッケージが必要です。これらのパッケージは、表 2-1、表 2-2、表 2-3 のファイルで構成されています。

表 2-1 JSatsvr パッケージの内容

/etc/rc2.d/	
S99atsv	システムの起動時に ATOK ユーザー管理デーモンを起動するスクリプト (/etc/init.d、/etc/rcS.d、/etc/rc0.d、/etc/rc1.d/ にリンクがある)
/var/locale/ja/atokserver/ original	/usr/lib/locale/ja/atokserver/original/ へのシンボリックリンク
/var/locale/ja/atokserver/ systemdic	/usr/lib/locale/ja/atokserver/systemdic へのシンボリックリンク

表 2-2 JSatsvru パッケージの内容

---

/usr/lib/locale/ja/atokserver	
atokmngdaemon	ATOK ユーザー管理デーモン
/usr/lib/locale/ja/atokserver/original	
atok12.conf	ATOK12 設定ファイル
atok12.sty	ATOK12 スタイルファイル
atok12n.sty	ATOK12 スタイルファイル
atok12p.sty	ATOK12 スタイルファイル
atok12u1.dic	ATOK12 ユーザー辞書 (空)
atok12u2.dic	ATOK12 ユーザー辞書 (空)
atok12u3.dic	ATOK12 ユーザー辞書 (空)
atok12u4.dic	ATOK12 ユーザー辞書 (空)
atok12u5.dic	ATOK12 ユーザー辞書 (空)
/usr/lib/locale/ja/atokserver/systemdic/	
atok12.dic	ATOK12 基本辞書
atok12tk.dic	ATOK12 単漢字辞書
atok12y5.dic	ATOK12 郵便番号辞書 (5 桁)
atok12y7.dic	ATOK12 郵便番号辞書 (7 桁)
atok12yc.dic	ATOK12 郵便番号辞書 (企業)
facem12.dic	フェイスマーク辞書
facemil2.dic	フェイスマーク辞書

---

表 2-3 JSatsvu パッケージの内容

---

/usr/openwin/bin/	
atok12setup	セットアップスクリプト
atok12migd	ATOK8 辞書移行スクリプト

---

ユーザーが、これ以外のファイルを実行したり参照したりすることはありません。

## ATOK12 使用時に作成または更新されるファイルとディレクトリ

次のファイルは、ユーザーが ATOK12 を初めて使用したときに /usr/lib/locale/ja/atokserver/original の同名のファイルから自動的にコピーされます。

表 2-4 ユーザーごとにコピーされる ATOK12 関連ファイル

atok12.conf	ATOK12 設定ファイル
atok12.sty	ATOK12 スタイルファイル
atok12n.sty	ATOK12 スタイルファイル
atok12p.sty	ATOK12 スタイルファイル
atok12u1.dic	ATOK12 ユーザー辞書
atok12u2.dic	ATOK12 ユーザー辞書
atok12u3.dic	ATOK12 ユーザー辞書
atok12u4.dic	ATOK12 ユーザー辞書
atok12u5.dic	ATOK12 ユーザー辞書

次のシンボリックリンクは、ユーザーが ATOK12 を初めて使用したときに /var/lib/locale/ja/atokserver/systemdic の同名のファイルに対して自動的に作成されます。

表 2-5 ユーザーごとに作成される ATOK12 関連シンボリックリンク

atok12.dic	ATOK12 基本辞書
atok12tk.dic	ATOK12 単漢字辞書
atok12y5.dic	ATOK12 郵便番号辞書 (5 桁)
atok12y7.dic	ATOK12 郵便番号辞書 (7 桁)
atok12yc.dic	ATOK12 郵便番号辞書 (企業)
facem12.dic	フェイスマーク辞書
facemi12.dic	フェイスマーク辞書

## ATOK12 の自動起動設定時に作成または更新される ファイル

次のファイルは、ATOK12 の自動起動設定時に作成または更新されます。

表 2-6 ユーザーのホームディレクトリ下の ATOK12 関連ファイル

---

\$HOME/	
.dtprofile	Solaris CDE 起動時に使用する個人環境設定 用スクリプトファイル

---

## Wnn6 セットアップとファイル構成

---

この章では、Wnn6 を使用する際に必要な使用環境のセットアップと Wnn6 のファイル構成について説明します。

---

### 使用環境のセットアップ

複数の日本語入力システムがインストールされている場合、ウィンドウシステムのデフォルトの日本語入力システムは次の優先順位で決まります。

1. ATOK12
2. Wnn6
3. ATOK8
4. cs00

たとえば、Wnn6 と ATOK8 がインストールされている場合、Wnn6 がデフォルトの日本語入力システムになります。

Wnn6 以外の日本語入力システムを使用するように設定されている状態で、Wnn6 を使用するには、ワークスペースメニューから「Wnn6 (htt) に設定...」<sup>1</sup>を選択し、一度ログアウトしてから再度ログインします。

---

1. 実際には「Wnn6(htt)に設定...」を選択すると、wnn6setup コマンドが実行されます。wnn6setup コマンドの詳細は、wnn6setup (1) のマニュアルページを参照してください。

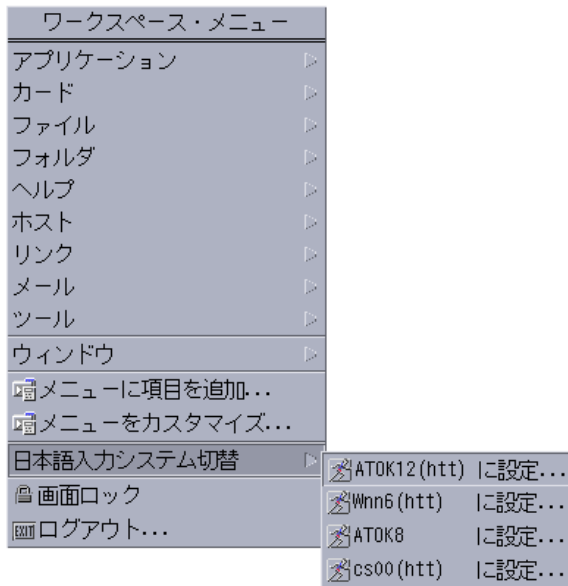


図 3-1 Solaris CDE で日本語入力システムを切り替える

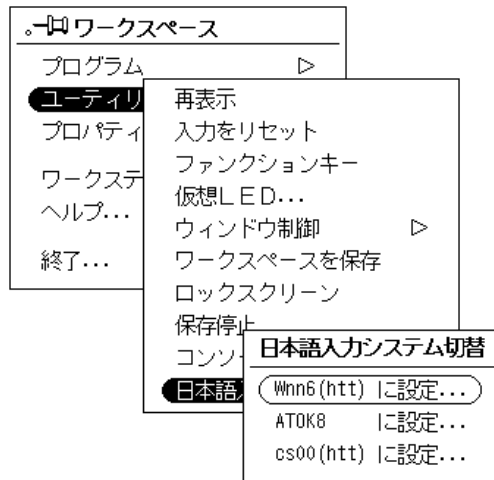


図 3-2 日本語 OpenWindows で日本語入力システムを切り替える



---

## 他の日本語入力システムとの同時使用

### ATOK8 との同時使用

ATOK8 を使用するように設定されている状態で Wnn6 を一時的に使用する場合は、端末エミュレータなどから次のように `htt` コマンドを起動します。

```
sun% htt -if xjsi -so -nosm &
```

Wnn6 を使用して日本語を入力したいアプリケーションは、環境変数 `XMODIFIERS` に `@im=htt` を指定して起動します。例えばテキストエディタ (`dtpad`) で Wnn6 を使用して日本語を入力したい場合は、次のようにします。

```
sun% env XMODIFIERS=@im=htt dtpad -standAlone &
```

### cs00 との同時使用

Wnn6 と cs00 は、ウィンドウ環境で同時に使用することはできません。

---

## ファイル構成

Wnn6 システムのディレクトリ構成を図 3-3 に示します。

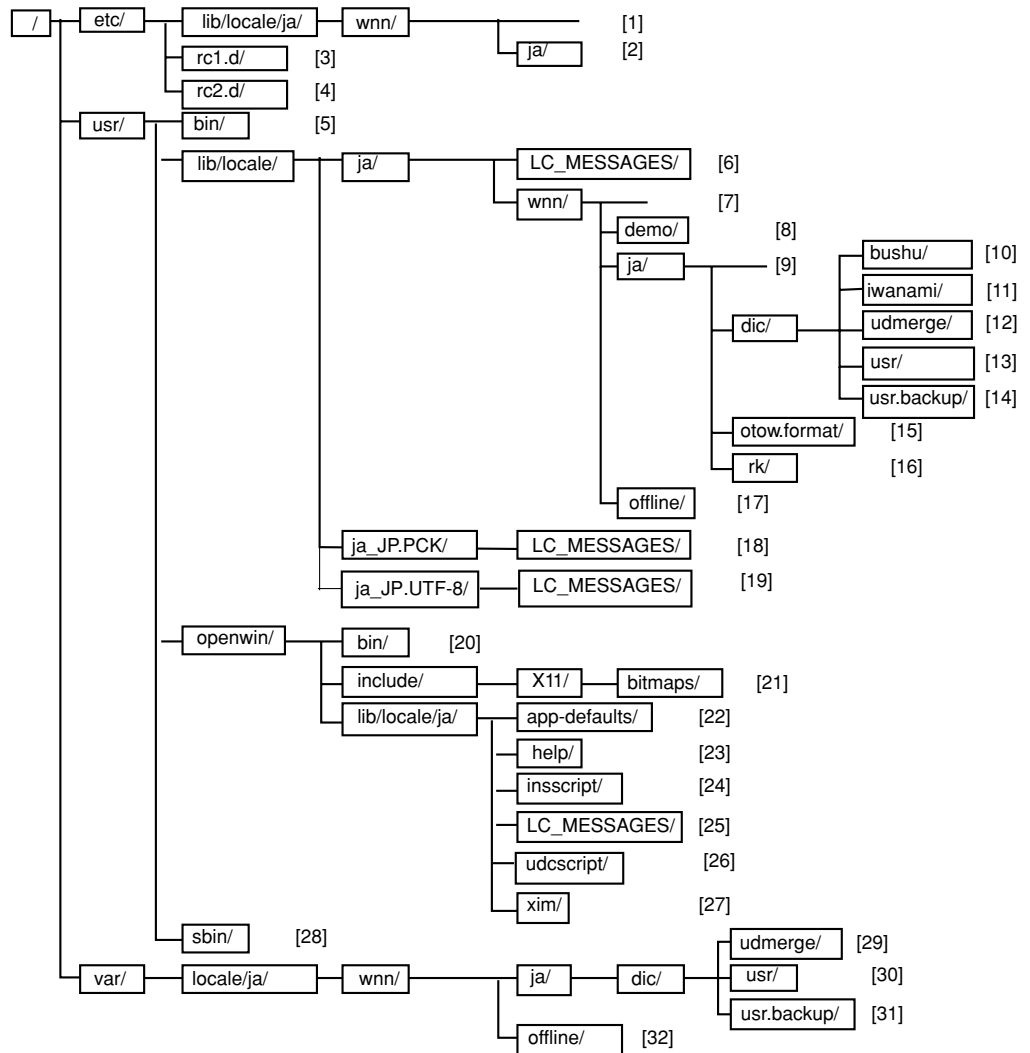


図 3-3 Wnn6 システムのディレクトリ構成

図 3-3 の [1] ~ [28] の各ディレクトリの内容、またはディレクトリの下に設置されるファイルの内容を表 3-2 で示します。表中の ※ は実行形式ファイルを示します。

表 3-1 Wnn6 システムのファイル一覧 (1)

No.	ファイル名	内容
[1]	/etc/lib/locale/ja/wnn/dpkeyallow	Wnn6 ライセンスサーバーへのアクセス制御
[1]	/etc/lib/locale/ja/wnn/dpkeylist	Wnn6 使用許諾情報
[1]	/etc/lib/locale/ja/wnn/dpkeyservlist	Wnn6 ライセンスサーバーのリスト
[1]	/etc/lib/locale/ja/wnn/offlinerc	オフライン学習を初期化する
[1]	/etc/lib/locale/ja/wnn/serverdefs	Wnn6 ライブラリのサーバーとの接続環境設定
[1]	/etc/lib/locale/ja/wnn/udmergerc	登録語自動反映を初期化する
[1]	/etc/lib/locale/ja/wnn/wnnhosts	サーバーへのアクセス許可
[2]	/etc/lib/locale/ja/wnn/ja/jserrerc	jservice を初期化する
[3] ※	/etc/rc1.d/K15Wnn6	jservice 停止用スクリプト
[4] ※	/etc/rc2.d/S94Wnn6	jservice 起動用スクリプト
[5] ※	/usr/bin/uum	かな漢字変換フロントエンドプロセッサ
[5] ※	/usr/bin/wnnatod	テキスト形式辞書⇒バイナリ形式辞書
[5] ※	/usr/bin/wnndtoa	バイナリ形式辞書⇒テキスト形式辞書
[5] ※	/usr/bin/wnnotow	辞書コンバータ
[5] ※	/usr/bin/wnnstat	変換サーバーの使用者状況を見る

表 3-1 Wnn6 システムのファイル一覧 (1) 続く

No.	ファイル名	内容
[5] ※	/usr/bin/wnntouch	辞書の inode を合わせる
[6]	/usr/lib/locale/ja/LC_MESSAGES/*.cat	日本語 EUC 環境用メッセージ
[7]	/usr/lib/locale/ja/wnn/cvt_key_tbl*	キーコード変換表
[7]	/usr/lib/locale/ja/wnn/cvt_xim_tbl	ファンクション / メタキー変換データベース
[7] ※	/usr/lib/locale/ja/wnn/dpkeyserv	Wnn6 ライセンスサーバー
[7] ※	/usr/lib/locale/ja/wnn/dpkeystat	Wnn6 ライセンスの使用状況を見る
[7] ※	/usr/lib/locale/ja/wnn/jserver	かな漢字変換サーバー
[7] ※	/usr/lib/locale/ja/wnn/wnnds	辞書引きサーバー
[7] ※	/usr/lib/locale/ja/wnn/wnnooffline	オフライン学習
[7] ※	/usr/lib/locale/ja/wnn/wnnudmerge	登録語自動反映
[7]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ximrc	Wnn6/Hit を初期化する
[8]	/usr/lib/locale/ja/wnn/demo/	デモ用ライブラリのディレクトリ
[9]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/hinsi.data	品詞管理
[9]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/rk/mode	オートマトン変換 / モード定義表
[9]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/uumrc	uum を初期化する
[9]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/uunkey	キーバインド定義

表 3-1 Wnn6 システムのファイル一覧 (1) 続く

No.	ファイル名	内容
[9]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/wnnenvrc	かな漢字変換環境初期化
[10]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/bushu/ bushu.dic	部首入力用辞書
[10]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/bushu/ bushu.dic.no_JISX0212	部首入力用辞書 (補助漢字を含まない)
[10]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/bushu/ bushu.fzk	部首入力用接続ベクトル定義
[11]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/iwanami/fisd	FI 関係システム辞書 (固定形式)
[11]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/iwanami/ *.dic	システム辞書 (固定形式)
[11]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/iwanami/ *.fzk	付属語情報データ

表 3-2 Wnn6 システムのファイル一覧 (2)

No.	ファイル名	内容
[12]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/udmerge	/var の下にある共用辞書用ディレクトリへのリンク
[13]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/	/var の下にあるユーザー辞書用ディレクトリへのリンク
[14]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/usr.backup/	/var の下にあるユーザー辞書バックアップ用ディレクトリへのリンク
[15]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/otow.format/ *.fmt	辞書コンバータで使用する各日本語入力システムの書式

表 3-2 Wnn6 システムのファイル一覧 (2) 続く

No.	ファイル名	内容
[16]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/rk/1*	オートマトン変換：対応表の前処理部分
[16]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/rk/2*	オートマトン変換：対応表の本処理部分
[16]	/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/rk/3*	オートマトン変換：対応表の後処理部分
[17]	/usr/lib/locale/ja/wnn/offline/	/var の下にあるオフライン学習用ディレクトリへのリンク
[18]	/usr/lib/locale/ja_JP.PCK/LC_MESSAGES/*.cat	PC 漢字コード環境用メッセージ
[19]	/usr/lib/locale/ja_JP.UTF-8/LC-MESSAGES/*.cat	UTF-8 環境用メッセージ
[20]	/usr/openwin/bin/wnnbushu	部首入力
[20]	/usr/openwin/bin/wnnenvutil	設定ユーティリティ
[20]	/usr/openwin/bin/wnndictutil	辞書ユーティリティ
[21]	/usr/openwin/include/X11/bitmaps/Wnn6.bitmap	ビットマップ
[22]	/usr/openwin/lib/locale/ja/app-defaults/Wnnbushu	Wnn6/Htt の部首入力リソース
[22]	/usr/openwin/lib/locale/ja/app-defaults/Wnndictutil	辞書ユーティリティのリソース
[22]	/usr/openwin/lib/locale/ja/app-defaults/Wnnenvutil	環境設定ユーティリティのリソース
[22]	/usr/openwin/lib/locale/ja/app-defaults/Xjsi	Wnn6/Htt のリソース

表 3-2 Wnn6 システムのファイル一覧 (2) 続く

No.	ファイル名	内容
[23]	/usr/openwin/lib/locale/ja/help/ wnnenvutil.hlp	環境設定ユーティリティ のヘルプ
[24]※	/usr/openwin/lib/locale/ja/imsscript/ S509Wnn6	Wnn6/Htt 起動用スクリ プト
[25]	/usr/openwin/lib/locale/ja/LC_MESSAGES/ *.cat	メッセージ
[26]※	/usr/openwin/lib/locale/ja/udcscript/ Wnn6_udcregister	外字ツール単語登録支援 機能用スクリプト
[27]	/usr/openwin/lib/locale/ja/xim/xjsi.so	htt 用インタフェースモ ジュール
[28] ※	/usr/sbin/wnnaccess	サーバーへのアクセスを 制御する
[28] ※	/usr/sbin/wnnkill	jserver を終了する
[29]	/var/locale/ja/wnn/ja/dic/udmerge/	共用辞書用ディレクトリ
[30]	/var/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/ fiud	FI 関係ユーザー辞書 (登 録可能形式)
[30]	/var/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/ muhenkan	ユーザーごとの無変換学 習辞書 (登録可能)
[30]	/var/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/ bunsetsu	ユーザーごとの文節切り 学習辞書 (登録可能)
[30]	/var/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/ ud	ユーザー辞書 (登録可能)
[30]	/var/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/ *.h	ユーザーごとの頻度情報

表 3-2 Wnn6 システムのファイル一覧 (2) 続く

No.	ファイル名	内容
[31]	/var/locale/ja/wnn/ja/dic/usr.backup/	ユーザー辞書バックアップ用ディレクトリ
[32]	/var/locale/ja/wnn/offline/	オンライン学習用データディレクトリ

ここで示したファイルのパス名は初期設定のものです。

初期化ファイル jserverrc、uumrc、wnnenvrc の中で、次のパスを設定しています。

- /usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic  
jserverrc のエントリ jserver\_dir で指定されています。
- ユーザーが新しく辞書を作成する場合の辞書と頻度ファイル  
uumrc のエントリ setjishopath/sethindopath で指定されています。
- /usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/iwanami/\*.fzk  
wnnenvrc のエントリ setfuzokugo で指定されています。
- /usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/\*.h、  
/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/ud、  
/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/dic/usr/<ユーザー名>/fiud、  
wnnenvrc のエントリ setdic で指定されています。



## ATOK8 セットアップとファイル構成

---

この章では、ATOK8 を使用する際に必要な使用環境のセットアップと、ATOK8 のファイル構成について説明します。

注 - この章で説明する設定や操作は、すべて一般ユーザーで作業してください。

---

### 使用環境のセットアップ

複数の日本語入力システムのインストールがされている場合、ウィンドウシステムのデフォルトの日本語入力システムは、次の優先順位で決まります。

1. ATOK12
2. Wnn6
3. ATOK8
4. cs00

たとえば、Wnn6 と ATOK8 がインストールされている場合、Wnn6 がデフォルトの日本語入力システムになります。

ATOK8 以外の日本語入力システムを使用するように設定されている状態で、ATOK8 を使用するには、ワークスペースメニューから「ATOK8 に設定...」<sup>1</sup>を選択し、一度ログアウトしてから、再度ログインします。

---

1. 実際には、「ATOK8 に設定...」を選択すると、`atok8setup` コマンドが実行されます。`atok8setup` コマンドの詳細は、`atok8setup(1)` のマニュアルページを参照してください。

「ATOK8 に設定...」の位置は、図 4-1 または、図 4-2 を参考にしてください。

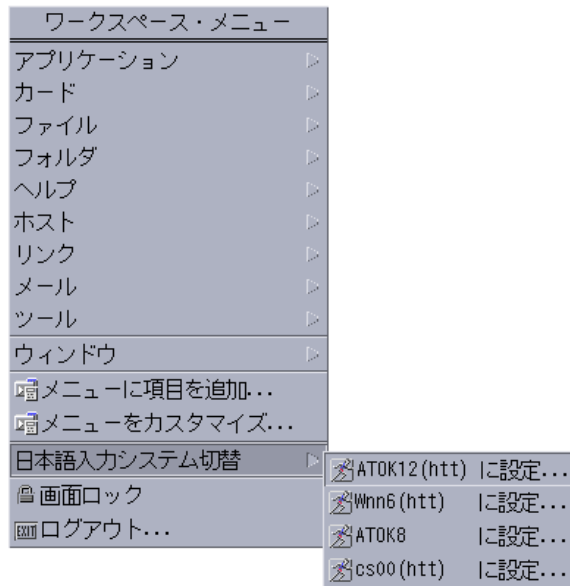


図 4-1 Solaris CDE で日本語入力システムを切り替える

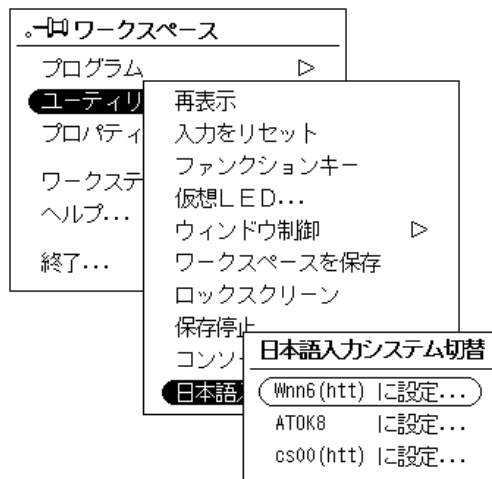


図 4-2 日本語 OpenWindows で日本語入力システムを切り替える

## その他の環境設定

次の環境変数の設定が必要です。

### ■ HOME

ユーザーのホームディレクトリを設定します。ATOK8の動作時には、辞書ファイルをはじめ環境設定ファイルなど、\$HOME/.atok8 の下のファイルが参照または更新されます。通常、この環境変数はログイン時に自動的に設定されるため、ユーザーが手動で設定する必要はありません。

### ■ XMODIFIERS

複数の入力サーバーが動作している中で、ATOK8 を使用する場合に設定します。

#### ■ C シェルの場合

```
sun% setenv XMODIFIERS @im=atok8
```

#### ■ Bourne シェルまたは Korn シェルの場合

```
sun$ XMODIFIERS=@im=atok8
sun$ export XMODIFIERS
```

---

注 - atok8setup コマンドを実行した場合のように、ATOK8 だけが動作している環境では設定する必要はありません。設定方法は次のとおりです。

---

## ファイル構成

### ATOK8 のパッケージ構成

ATOK8 をウィンドウシステム上で利用するには、ウィンドウシステムのパッケージに加え、JSat8xw パッケージが必要です。JSat8xw<sup>2</sup> パッケージは表 4-1 のファイルで構成されています。

---

2. エンドユーザークラスタ以上のクラスタを選んでインストールする場合は、標準でインストールされます。

表 4-1 JSat8xw パッケージのファイル - 1

/usr/openwin/bin/	
atok8	日本語入力サーバー本体
atok8dicm	辞書メンテナンスコマンド
atok8migd	ATOK7 辞書移行コマンド
atok8setup	セットアップスクリプト
/usr/openwin/lib/locale/ja/app-defaults/	
Atok8	app-defaultsファイル
/usr/openwin/lib/locale/ja/atok8/	
atok8.ucf	デフォルトの環境設定ファイル
atok8.ucf.like7	環境設定ファイル ATOK7 (Solaris 用) に似たキーバインドを好むユーザー用
atok8.dic	基本辞書マスター
atok8tkj.dic	単漢字辞書マスター
atok8you.dic	空辞書マスター

次の表 4-2 にあるファイルはユーザーが直接実行したり、参照したりすることはありません。



注意 - ファイル名やパス名は将来変更される場合があります。

表 4-2 JSat8xw パッケージのファイル - 2

/usr/openwin/lib/locale/ja/atok8/	
atok8conftool	環境設定ツールのバイナリファイル
atok8dictool	辞書メンテナンスツールのバイナリファイル
atok8wordreg	単語登録ウィンドウのバイナリファイル
/usr/openwin/lib/locale/ja/atok8/keymap/	
default	キーマップファイル

表 4-2 JSat8xw パッケージのファイル - 2 続く

<hr/>	
<code>/usr/openwin/lib/locale/ja/LC_MESSAGES/</code>	
<code>JS_ATOK8_CONFTOOL.cat</code>	環境設定ツール用メッセージカタログ
<code>JS_ATOK8_SETUP.mo</code>	セットアップスクリプト用メッセージオブジェクト
<hr/>	
<code>/usr/openwin/lib/locale/ja/help/</code>	
<code>atok8.hlp</code>	ヘルプファイル
<code>atok8conftool.hlp</code>	環境設定ツール用ヘルプファイル
<code>atok8dictool.hlp</code>	辞書メンテナンスツール用ヘルプファイル
<hr/>	
<code>/usr/openwin/lib/locale/ja/imsscript/</code>	
<code>S549atok8</code>	atok8 自動起動用シェルスクリプト (ja ロケール用)
<hr/>	
<code>/usr/openwin/lib/locale/ja_JP.PCK/ imsscript/</code>	
<code>S549atok8</code>	atok8 自動起動用シェルスクリプト (ja_JP.PCK ロケール用)
<hr/>	
<code>/usr/openwin/lib/locale/ja_JP.UTF-8/immsscript/</code>	
<code>S549atok8</code>	atok8 自動起動用シェルスクリプト (ja_JP.UTF-8 ロケール用)
<hr/>	
<code>/usr/openwin/lib/locale/ja/udcscript/</code>	
<code>ATOK8_udcregister</code>	外字ツール単語登録支援機能用シェルスクリプト
<hr/>	

## ATOK8 使用時に作成または更新されるファイルとディレクトリ

次のファイルは、ATOK8 を初めて起動したときに

`/usr/openwin/lib/locale/ja/atok8` の下の同名のファイルから自動的にコピーされます。

表 4-3 ユーザーのホームディレクトリ下の ATOK8 関連ファイル

---

\$HOME/.atok8/	
atok8.ucf	ユーザー用環境ファイル
atok8.dic	ユーザー用辞書
atok8tkj.dic	ユーザー用単漢字辞書
atok8you.dic	ユーザーカスタマイズ用空辞書

---

## ATOK8 の自動起動設定時に作成または更新されるファイル

次のファイルは、ATOK8 の自動起動設定時に作成または更新されます。

表 4-4 ユーザーのホームディレクトリ下の ATOK8 関連ファイル

---

\$HOME/	
.openwin-init	日本語 OpenWindows 起動ファイル
.dtprofile	Solaris CDE 起動時に使用する個人環境設定用スクリプトファイル

---

## cs00 セットアップとファイル構成

---

この章では、cs00 を使用する際に必要な使用環境のセットアップと cs00 のファイル構成について説明します。

---

### 使用環境のセットアップ

複数の日本語入力システムがインストールされている場合、ウィンドウシステムのデフォルトの日本語入力システムは、次の優先順位で決まります。

1. ATOK12
2. Wnn6
3. ATOK8
4. cs00

たとえば、ATOK8 と cs00 がインストールされている場合、ATOK8 がデフォルトの日本語入力システムになります。

cs00 以外の日本語入力システムを使用するように設定されている状態で、cs00 を使用するには、ワークスペースメニューから「cs00(htt) に設定...」<sup>1</sup> を選択し、一度ログアウトしてから、再度ログインします。

「cs00(htt) に設定...」の位置は、図 5-1 または、図 5-2 を参考にしてください。

---

1. 実際には、「cs00(htt) に設定...」を選択すると、cs00setup コマンドが実行されます。cs00setup コマンドの詳細は、cs00setup(1) のマニュアルページを参照してください。

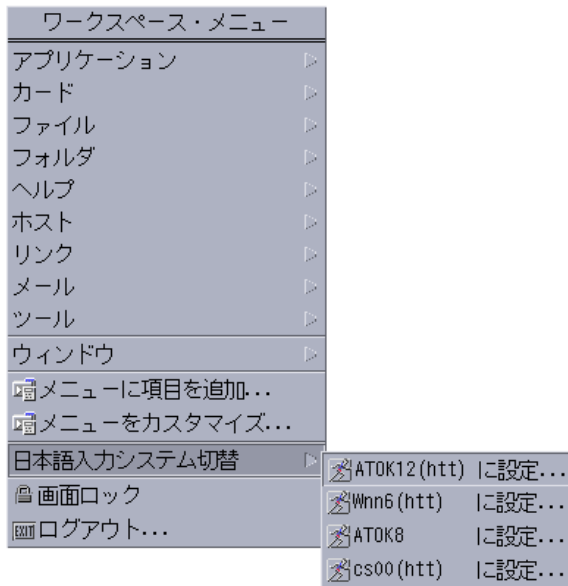


図 5-1 Solaris CDE で日本語入力システムを切り替える

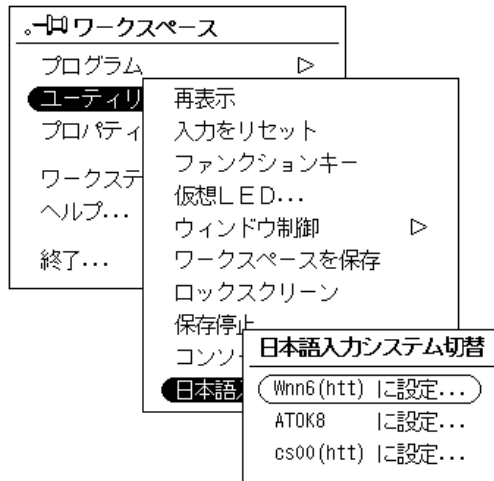


図 5-2 日本語 OpenWindows で日本語入力システムを切り替える



## cs00 のパッケージを後から追加する場合の注意 点

Solaris のインストール時に cs00 のパッケージを選択せずに、インストール作業を行なった場合、cs00 のパッケージを後から追加しても、そのままでは cs00 を使用することはできません。これは、かな漢字変換サーバー cs00 が、パッケージをインストールするだけでは起動されないためです。

cs00 のパッケージを後から追加した場合、次の作業が必要です(システムをリブートすることでも cs00 は使用可能)。

- ◆ `cssd` コマンドにシグナル **SIGHUP** を送信します。

```
% su
# ps -e | grep cssd
  226 ?      0:00 cssd
# kill -HUP 226
```

これにより、`cssd` は、新たにインストールされた `cs` 起動スクリプト (`cs00` 起動スクリプト) を検出し、かな漢字変換サーバー `cs00` を起動します。

`cssd` に関しては、マニュアルページ `cssd(1M)` を参照してください。

## ファイル構成

`cs00` をウィンドウシステム上で使用するには、ウィンドウシステムのパッケージに加え、次のパッケージが必要です。<sup>2</sup>

表 5-1 cs00 に必要なパッケージ

SUNWxim	入力サーバー <code>htt</code> のパッケージ
SUNWjc0r	cs00 / ディレクトリ用パッケージ
SUNWjc0u	cs00 /usr ディレクトリ用パッケージ

2. エンドユーザークラスタ以上のクラスタを選んでインストールする場合は、標準でインストールされます。

表 5-1 cs00 に必要なパッケージ 続く

SUNWjc0w	cs00 ユーザー辞書メンテナンスツール (日本語 OpenWindows 版)
SUNWjc0d	cs00 ユーザー辞書メンテナンスツール (Solaris CDE 版)

SUNWjc0r、SUNWjc0u、SUNWjc0w、SUNWjc0d パッケージの主要なファイルを表 5-2 ~ 表 5-5 に示します。

表 5-2 SUNWjc0r パッケージのファイル

ファイル名	ファイル内容
/var/mle/ja/cs00/	
cs00_u.dic	cs00 ユーザー辞書
cs00_m.dic	cs00 メイン辞書
/etc/mle/ja/cs00/	
csdef	CS 定義情報ファイル (libmle、mle)
config	デフォルト設定ファイル (libmle、mle)
keybind	キー割り当て定義ファイル (libmle、mle)
keyword	キーワード定義ファイル
resources	カスタマイズ用ファイル (xci)
hiragana.ccv	文字コード変換規則定義ファイル (ひらがなモード用)
katakana.ccv	文字コード変換規則定義ファイル (全角カタカナモード用)
h_katakana.ccv	文字コード変換規則定義ファイル (半角カタカナモード用)
eisuu.ccv	文字コード変換規則定義ファイル (半角英数モード用)
h_eisuu.ccv	文字コード変換規則定義ファイル (全角英数モード用)

表 5-3 SUNWjc0u パッケージのファイル

ファイル名	ファイル内容
/usr/bin/	
cs00setup	cs00 ウィンドウ環境設定用コマンド
mdicm	cs00 メイン辞書メンテナンスツール
udicm	cs00 ユーザー辞書メンテナンスツール
/usr/sbin/	
cs00	cs00 かな漢字変換サーバー本体
/usr/lib/css.d/	
cs00.sh	cssd 用 cs00 起動スクリプト

表 5-4 SUNWjc0w パッケージのファイル

ファイル名	ファイル内容
/usr/openwin/bin/	
udicmtool	cs00 ユーザー辞書ツール (日本語 OpenWindows 版)
/usr/openwin/lib/locale /ja/imsscript/	
S599cs00	入力サーバー htt を cs00 と接続して 起動するためのスクリプト (ja ロケール用)
/usr/openwin/lib/locale /ja_JP.PCK/imsscript/	
S599cs00	入力サーバー htt を cs00 と接続して 起動するためのスクリプト (ja_JP.PCK ロケール用)
/usr/openwin/lib/locale /ja_JP.UTF-8/imsscript/	
S599cs00	入力サーバー htt を cs00 と接続して起動するためのスクリプト (ja_JP.UTF-8 ロケール用)
/usr/openwin/lib/locale /ja/udcscript/	
cs00_udcregister	外字ツール単語登録支援機能用シェルスクリプト
/usr/openwin/lib/locale/ja/help/	
udicmtool.info	ヘルプファイル (日本語)

表 5-4 SUNWjc0w パッケージのファイル 続く

ファイル名	ファイル内容
/usr/openwin/lib/locale/C/help/ udicmtool.info	ヘルプファイル (英語)
/usr/openwin/lib/locale /ja/LC_MESSAGES/ SUNW_JFP_UDICMTOOL.mo	メッセージファイル (日本語)

表 5-5 SUNWjc0d パッケージのファイル

ファイル名	ファイル内容
/usr/dt/bin/ sdtudicm	cs00 ユーザー辞書ツール (日本語 Solaris CDE 版)
/usr/dt/lib/nls/msg/ja/ sdtudicm.cat	メッセージカタログファイル (日本語)
/usr/dt/app-defaults/ja/ Sdtudicm	app-defaults ファイル (ja ロケール用)
/usr/dt/app-defaults/ja_JP.PCK/ Sdtudicm	app-defaults ファイル (ja_JP.PCK ロケール用)
/usr/dt/app-defaults/ja_JP.UFT-8/ Sdtudicm	app-defaults ファイル (ja_JP.UTF-8 ロケール用)
/usr/dt/appconfig/help/ja/ Sdtudicm.info	ヘルプファイル (日本語)

## cs00 の使用するファイルと関連するプログラムとの関係

図 5-3 は cs00 の使用するファイルと関連するプログラムとの関係について説明したものです。cs00 は、入力サーバー `htt` または `mle` コマンドを使用してアプリケーションから利用できます。

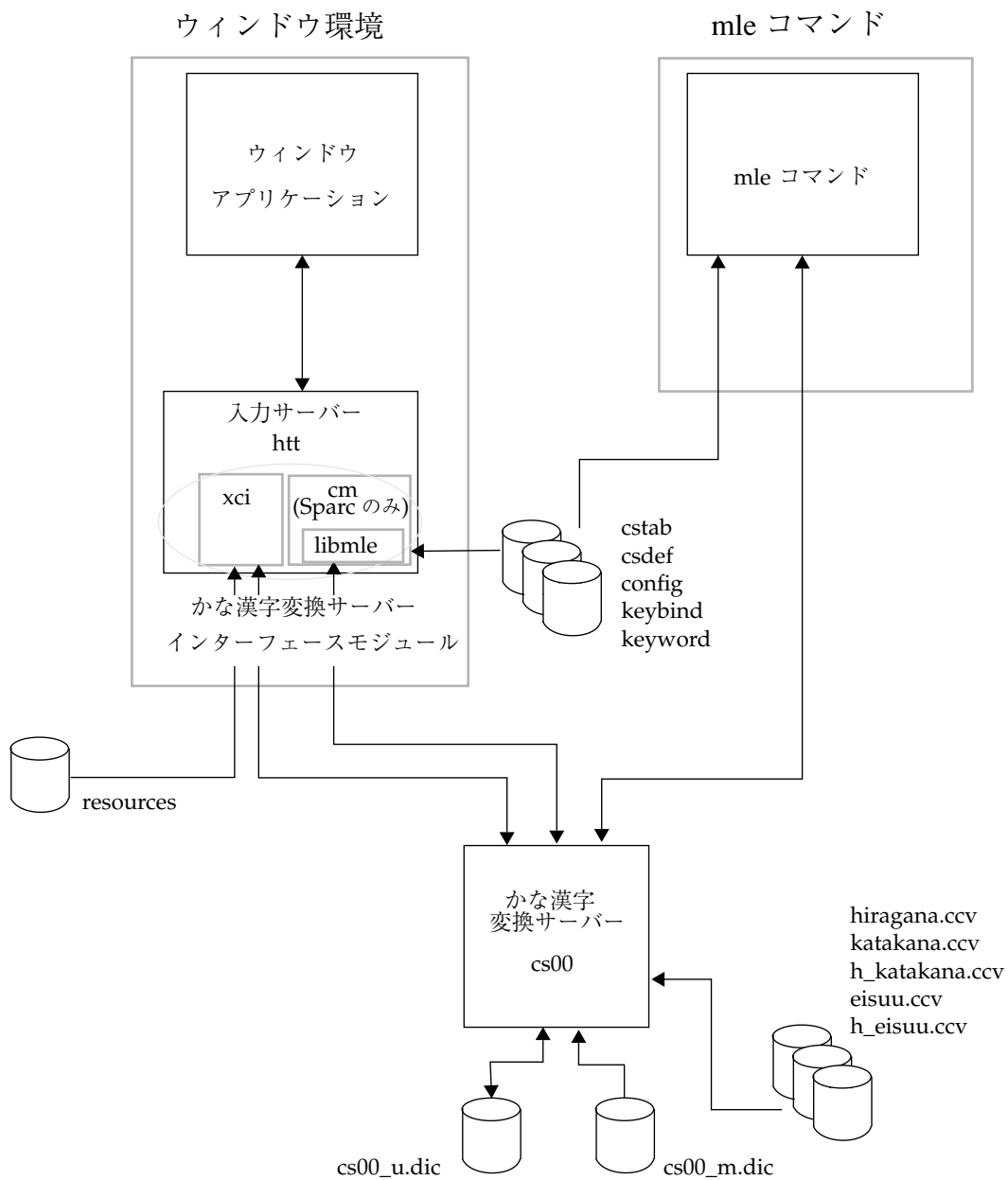


図 5-3 cs00 の使用するファイルと関連するプログラム

## 以前のリリースより移動したファイル

cs00 の主なファイルは、Solaris 2.6 から表 5-6 のように移動しました。Solaris 2.5.1 以前のリリースとの互換性を保つため、移動前の位置にもシンボリックリンクが張られています。

表 5-6 cs00 の移動したファイルの位置関係

ファイル名	Solaris 2.5.1 以前の位置	Solaris 8 での位置
cstab	/usr/lib/mle/ja/	/etc/mle/ja/
keyword	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
resource	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
csdef	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
config	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
keybind	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
hiragana.ccv	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
katakana.ccv	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
h_katakana.ccv	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
eisuu.ccv	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
h_eisuu.ccv	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/etc/mle/ja/cs00/
cs00_m.dic	/usr/lib/mle/ja/cs00/	/var/mle/ja/cs00/

## パート III ユーザー登録単語および環境ファイルの移行

---





## ATOK12 への移行

---

この章では、日本語入力システム ATOK8 または cs00 から ATOK12 に切り替える場合に、以前の日本語入力環境をできるだけ維持するための手順や制約事項について説明します。

Solaris 上で ATOK8 から ATOK12 に移行する場合、ATOK8 の使用環境の一部を ATOK12 の使用環境に反映することができます。

ATOK12 に移行しても継続して使用できるのは、次の 2 点です。

- ATOK8 の辞書に登録した単語を ATOK12 で使用する
- ATOK8 でのカスタマイズ内容の一部を ATOK12 にも適用する

cs00 から ATOK12 に移行する場合も、cs00 用のユーザー辞書に登録した単語を継続して使用できます。

---

### ATOK8 の辞書に登録した単語を ATOK12 で使用する

atok12migd コマンドを実行すると、ATOK8 の辞書に登録した単語を ATOK12 で使用できる形式に変換し、ATOK12 の辞書とマージして使用できます。

atok12migd は、ATOK8 システムにもともと含まれている単語はマージしないで、ユーザーが登録した単語だけを ATOK12 の辞書にマージします。ATOK8 と ATOK12 の両方の辞書に登録されている単語はマージしません。また、マージ元の

ATOK8 の辞書の中身が、マージ処理によって破壊されたり変更されたりすることはありません。

atok12migd コマンドの形式は次のとおりです。

```
sun% atok12migd [-h xxx] atok8_dic atok12_dic
```

各引数は次のとおりです。

- atok8\_dic* : ATOK8 の辞書ファイルです。システム辞書とユーザー辞書のどちらでも指定できます。特に型を指定しなくても自動的に判別して処理します。
- atok12\_dic* : ATOK12 の辞書ファイルです。
- h xxx* : 品詞を指定し、マージする単語を品詞によって限定します。指定には、ATOK8 の品詞番号を使用します。複数の品詞を指定する場合は + で区切ります。品詞番号については表 6-1 を参照してください。
- k xxx* : 単語の種類を指定し、マージする単語を限定します。引数として指定できるのは、*auto* と *usr* です。*auto* を指定すると、自動登録単語のみがマージされます。*usr* を指定すると、ユーザー登録単語のみがマージされます。引数を指定しないと、自動登録単語とユーザー登録単語が両方ともマージされます。
- n xxx* : 辞書セット番号を指定し、マージ先の辞書を選択します。辞書セット番号は、1 ~ 10 の数字で指定します。辞書セット番号を指定しないと、環境設定ファイルで「基本辞書セット No」に設定された辞書セットがマージ先辞書セットになります。

atok12migd は、ja 以外のロケールでは動作しません。ja 以外のロケールで実行する場合は、次のように LC\_ALL に ja を指定して実行してください。

```
sun% env LC_ALL=ja atok12migd atok8_dic atok12_dic
```

---

注 - atok12dicm コマンドや辞書メンテナンス用単語ファイルなどで使用する品詞番号とは異なりますので、注意してください。

---

品詞指定の例 :

1	一般名詞
2+3	固有人名と固有地名
6+7+11+12	名詞サ変と名詞ザ変と連体詞と接続詞
all	すべての品詞 (1. 一般名詞 ~ 33. 副詞)

表 6-1 ATOK12 の品詞番号と種類

1	一般名詞	2	固有人名	3	固有地名
4	固有組織	5	固有一般	6	名詞サ変
7	名詞ザ変	8	名詞形動	9	独立語
10	単漢字	11	連体詞	12	接続詞
13	感動詞	14	接頭語	15	接尾辞
16	数詞	17	カ行五段	18	ガ行五段
19	サ行五段	20	タ行五段	21	ナ行五段
22	ハ行五段	23	バ行五段	24	マ行五段
25	ラ行五段	26	ワ行五段	27	一段動詞
28	カ変動詞	29	サ変動詞	30	ザ変動詞
31	形容詞	32	形容動詞	33	副詞

詳細については、atok12migd(1) のマニュアルページを参照してください。

## ATOK8 の環境設定ファイルを ATOK12 で利用する

atok12migs コマンドを実行すると、ATOK8 の環境設定ファイル内のキーやローマ字変換の設定内容が ATOK12 で使用できる形式に変換されます。これが ATOK12 のスタイルファイルになります。

変換済みのスタイルファイルを ATOK12 カスタマイザで追加・選択すると、ATOK8 のキー設定やローマ字設定を ATOK12 でも使用できます。

atok12migs コマンドの形式は次のとおりです。

```
sun% atok12migs [-k] [-r] atok8_ucf atok12_sty
```

各引数は次のとおりです。

*atok8\_ucf* : ATOK8 の環境設定ファイルです。  
*atok12\_sty* : ATOK12 のスタイルファイルです。  
-k : キーに関する操作環境の設定内容だけを変換します。  
-r : ローマ字に関する操作環境の設定内容だけを変換します。

*atok12migs* は、*ja* 以外のロケールでは動作しません。*ja* 以外のロケールで実行する場合は、次のように *LC\_CTYPE* に *ja* を指定して実行してください。

```
sun% env LC_CTYPE=ja atok12migs atok8_ucf atok12_sty
```

詳細については、*atok12migs* (1) のマニュアルページを参照してください。

---

## cs00 の辞書に登録した単語を ATOK12 で利用する

cs00 辞書から ATOK12 へ単語を移行する場合も、cs00 から ATOK8 への移行の場合と同様に、*cs00toatok8* を使用します。*cs00toatok8* は、cs00 のユーザー辞書を ATOK8 で利用するための変換フィルタです。このフィルタを使用して作成した単語ファイル (ATOK8 では「単語リスト」と呼びます) は、ATOK8 の辞書メンテナンスツールのほか、ATOK12 辞書ユーティリティでも使用できます。

次に、この変換手順を説明します。

1. *udicm*、*sdtudicm* (**Solaris CDE** 上の場合)、または *udicmtool* (**日本語 OpenWindows** 上の場合) を用いてユーザー辞書から単語リストのファイルを作成します。
  - *udicm* を使用する場合  
次を実行します。

```
sun% udicm show cs00_u.dic > cs00_u.list
```

*cs00\_u.list* には *cs00* のユーザー辞書名を、*cs00\_u.list* には単語リストのファイル名をそれぞれ指定します。

- `sdtudicm` または、`udicmtool` を使用する場合  
『*cs00* ユーザーズガイド』を参照してください。

2. **cs00** の単語リストのファイルを **ATOK8** の辞書メンテナンスで使用するテキスト形式の単語ファイルに変換します。

```
sun% cs00toatok8 cs00_u.list > atok8.list
```

*cs00\_u.list* には手順 1 で得られた *cs00* の単語リストのファイル名を、*atok8.list* には **ATOK8** のテキスト形式の単語ファイルのファイル名を指定します。

3. **ATOK12** 辞書ユーティリティを使用して、手順 2 で得られたファイルの内容を **ATOK12** の辞書に登録します。
  - a. **ATOK** パレットから **ATOK12** 辞書ユーティリティを起動します。
  - b. **ATOK12** 辞書ユーティリティの「一括処理」ボタンを押し、「単語一括処理」を選択します。
  - c. 以下の例を参考に入力します。

ATOK 辞書	標準辞書
単語ファイル	/home/user/atok8.list
単語ファイル形式	ATOK
出力ファイル	/home/user/atok12usr.unreg

*atok8.list* には、手順 2 で指定した **ATOK8** のテキスト形式の単語ファイルのファイル名を指定します。

*/home/user* には、ユーザーのホームディレクトリを指定します。

- d. 「登録」ボタンを押しします。

これで、登録は完了です。

## Wnn6 への移行

この章では、ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-Delta、EGBRIDGE でユーザーが登録した単語情報を Wnn6 で使用する方法について説明します。また、移行の際に利用されるファイルの形式についても説明します。

### ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-Delta、EGBRIDGE の単語情報を Wnn6 で使用する

次の手順により単語情報を Wnn6 で使用できるようになります。

1. **ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-Delta、EGBRIDGE** でユーザーが登録した単語情報を、テキスト形式で単語ファイルに保存します。この方法については、各日本語入力システムのマニュアルを参照してください。

- 例 - ATOK8 で単語ファイルを作成する場合

1. ATOK8 の「辞書ツール」ボタンを押し、辞書メンテナンスツールを起動します。
2. 「一覧表示」ボタンを押し、一覧表示ウィンドウを開きます。
3. 「単語一覧ファイル作成」を「する」に設定し、一覧表示を実行して、atok8.txt に単語情報を保存します。

なお、作成した単語ファイルの文字コードが日本語 EUC でない場合、文字コードを日本語 EUC に変換する作業が必要です (Solaris 上の ATOK8 および cs00 で作成した場合、文字コードは日本語 EUC になりますので、この作業は

必要ありません)。変換方法については、`iconv(1)` および `iconv_ja(5)` のマニュアルページを参照してください。

- 例 - `cs00` で単語ファイルを作成する場合

```
sun% udicm show cs00_u.dic > cs00.txt
```

- 例 - PC 漢字コードで作成されたテキストファイルの文字コードを変換する場合

```
sun% iconv -f pck -t eucJP pck-word-file > word-file
```

## 2. 作成した単語ファイルを **Wnn6** のテキスト形式辞書に変換します。

```
sun% wnnotow -i word-file -o wnn6-dict -f format -l log-file
```

各指定の意味は次のとおりです。詳細については、後述の「ファイル形式」の節を参照してください。

- i *word-file* 変換の対象となる単語ファイル
- f *format* 変換の対象となる単語ファイルの形式を示す書式ファイル
- o *wnn6-dict* 作成する Wnn6 テキスト形式辞書
- l *log-file* 変換に失敗した単語を記録するログファイル

- 例 - ATOK8 で登録した単語情報を使用する場合

```
sun% wnnotow -i atok8.txt -o wnn6.u -f \  
/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/otow.format/atok8-wnn6.fmt
```

- 例 - ATOK7 で登録した単語情報を使用する場合

```
sun% wnnotow -i atok7.txt -o wnn6.u -f \  
/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/otow.format/atok7-wnn6.fmt
```

- 例 - `cs00` で登録した単語情報を使用する場合



```
sun% wnnotow -i cs00.txt -o wnn6.u -f \  
/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/otow.format/cs00-wnn6.fmt
```

- 例 - VJE-Delta で登録した単語情報を使用する場合

```
sun% wnnotow -i vje.txt -o wnn6.u -f \  
/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/otow.format/vje-wnn6.fmt
```

- 例 - EGBRIDGE で登録した単語情報を使用する場合

```
sun% wnnotow -i egb.txt -o wnn6.u -f \  
/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/otow.format/egbridge-wnn6.fmt
```

3. 作成した **Wnn6** テキスト形式辞書を **Wnn6** 辞書ユーティリティ (wnndictutil) で登録します。**Wnn6** 辞書ユーティリティの使用方法については、『**Wnn6** ユーザーズガイド』を参照してください。

---

## ファイル形式

この節では、Wnn6 のテキスト形式辞書を作成する場合に使われるファイルの形式について説明します。各ファイルでは、日本語 EUC を使用します。

### 単語ファイル

変換の対象となる単語ファイル (ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-Delta、EGBRIDGE) を指定します。それぞれの「読み」と「単語」の長さは、253 文字までです。

## ATOK8 辞書形式

!コメント		
読み 1,	単語 1,	品詞 1
読み 2,	単語 2,	品詞 2
読み 3,	単語 3,	品詞 3
.	.	.
.	.	.

例：

!ATOK8UT;単語一覧;A:ATOK8 ATOK8.DIC		
book,	本,	一般名詞
ア,	有,	ラ行五段
ア,	亜,	単漢字
ア,	阿,	単漢字
ア,	あ,	カ行五段
		.
		.

## ATOK7 辞書形式

【コメント】		
読み 1,	単語 1,	品詞 1
読み 2,	単語 2,	品詞 2
読み 3,	単語 3,	品詞 3
.	.	.
.	.	.

例：

ア,	亜,	単漢字
ア,	あ,	カ行五段
ア,	あ,	ワ行五段
ア,	阿,	単漢字
ア,	開,	カ行五段
		.
		.

### cs00 辞書形式

#コメント		
読み 1 「Tab」	単語 1 「Tab」	品詞 1
読み 2 「Tab」	単語 2 「Tab」	品詞 2
読み 3 「Tab」	単語 3 「Tab」	品詞 3
.	.	.
.	.	.

例：

あ	有	:RV
あ	飽	:KV
あ	遭	:MV
	.	.
	.	.

### VJE-Delta 辞書形式

#コメント		
読み 1 「Tab」	単語 1 「Tab」	品詞 1
読み 2 「Tab」	単語 2 「Tab」	品詞 2
読み 3 「Tab」	単語 3 「Tab」	品詞 3

.	.	.
.	.	.

例：

あ	編	[マ五]
あ	あ	[ワ五]
あ	あ	[ラ五ある]
あ	開	[カ五]
あ	空	[カ五]
	.	
	.	

## EGBRIDGE 辞書形式

#コメント		
読み 1 [Tab]	単語 1 [Tab]	品詞 1
読み 2 [Tab]	単語 2 [Tab]	品詞 2
読み 3 [Tab]	単語 3 [Tab]	品詞 3
.	.	.
.	.	.

例：

あー	アーカイブ	1+20
あきはばら	秋葉原	1+3
あせ	(^_^;	1
あたらし	新し	1
あとかぎ	』	1
あとかく	]	1
あとてん	''	1
あとば	】	1

アプリ	アプリケーション	1
.	.	.
.	.	.

## 書式ファイル

単語ファイルの書式を定義します。

書式ファイルの内容は、「書式データ」部分と「品詞」部分に分かれています。

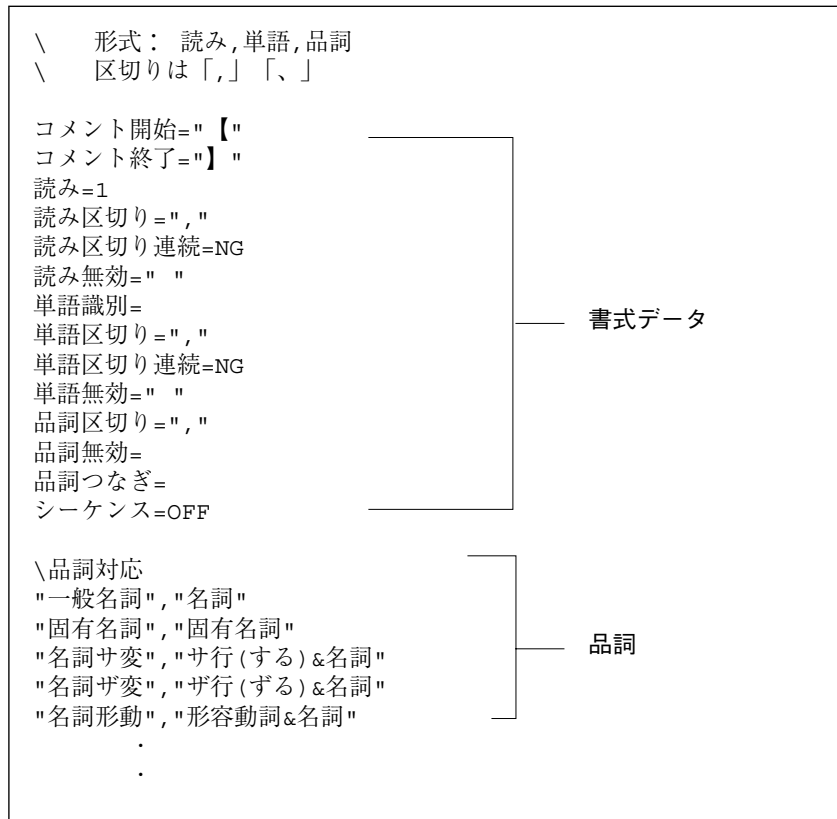
書式ファイルは `/usr/lib/locale/ja/wnn/ja/otow.format/` の下に、接尾辞 `.fmt` が付いて置かれています。

各日本語入力システムの書式ファイル名は表 7-1 のとおりです。

表 7-1 各日本語入力システムの書式ファイル

ATOK8 用書式ファイル	atok8-wnn6.fmt
ATOK7 用書式ファイル	atok7-wnn6.fmt
cs00 用書式ファイル	cs00-wnn6.fmt
VJE-Delta 用書式ファイル	vje-wnn6.fmt
EGBRIDGE 用書式ファイル	egbridge-wnn6.fmt

以下は ATOK7 の書式ファイル例です。「書式データ」と「品詞」は次のように分類されています。



"\" で始まる行はコメント行になり、解釈されません。

## 書式データ

書式データは、単語ファイルの単語データについて、個々の要素の区切り文字列や最大文字列、読み / 単語に使用される文字で無効とする文字などを定義しています。

書式データのフォーマットは次のとおりです。

キーワード	=	パラメタ
キーワード	=	パラメタ
キーワード	=	パラメタ

・  
・

書式キーワードに対応する定義を ASCII 文字 "=" で指定します。「タブ文字」などの制御文字を使用する場合、実際の制御文字を使用することができます。

また、次の例のように、"\ " に続く一文字、または "\ " に続く 3 桁の 8 進数で、ASCII コードを指定することもできます。

例：

制御コード	8 進数
\a	\007
\t	\011
\n	\012
\v	\013
\f	\014
\r	\015
\"	\042
\'	\047
\\	\104

書式データでキーワードが定義されていない場合は、ATOK7 用の定義が適用されます。

表 7-2 日本語入力システム各キーワードの意味

キーワード	意味
コメント開始	コメント開始部分の文字を指定。最大 4 バイトでコメント開始文字を指定することができる。単語ファイルにコメントがない場合は、パラメタを記述しない
コメント終了	コメント終了部分の文字を指定。最大 4 バイトでコメント終了文字を指定することができる。単語ファイルにコメントがない場合は、パラメタを記述しない。行末は必ずコメントの終了になる
読み	読みの文字幅 (半角、全角) を指定。半角の場合は 1、全角の場合は 2 を指定
読み区切り	読みの終了を示す文字を指定。最大 4 バイトで終了文字を指定することができる。「読み区切り」は複数設定することができる

表 7-2 日本語入力システム各キーワードの意味 続く

キーワード	意味
読み区切り連続	読み区切りの文字を連続して入力できるかを指定。できる場合は OK、できない場合は NG を指定
読み無効	読みに使用される文字で、無効となる文字を指定。最大 4 バイトで無効となる文字を指定することができる。単語ファイルに「読み無効」の文字がない場合は、パラメタを記述しない。「読み無効」は複数指定することができる
単語識別	単語を囲む文字を指定。最大 4 バイトで文字を指定することができる。単語ファイルに「単語識別」の文字がない場合は、パラメタを記述しない
単語区切り	単語の終了を示す文字を指定。最大 4 バイトで終了文字を指定することができる。単語ファイルに「単語区切り」の文字がない場合は、パラメタを記述しない。「単語区切り」は複数指定することができる
単語区切り連続	単語区切りの文字を連続して入力できるかを指定。できる場合は OK、できない場合は NG を指定
単語無効	単語に使用される文字で、無効となる文字を指定。最大 4 バイトで無効となる文字を指定することができる。単語ファイルに「単語無効」の文字がない場合は、パラメタを記述しない。「単語無効」は複数指定することができる
品詞区切り	品詞の終了を示す文字を指定。最大 4 バイトで終了文字を指定することができる。単語ファイルに「品詞区切り」の文字がない場合は、パラメタを記述しない。行末は必ず品詞の終了
品詞無効	品詞に使用される文字で、無効となる文字を指定。最大 4 バイトで無効となる文字を指定することができる。単語ファイルに「品詞無効」の文字がない場合は、パラメタを記述しない。「品詞無効」は複数指定することができる
品詞つなぎ	複数の品詞を指定する場合に使用。最大 4 バイトでつなぎとなる文字を指定することができる。単語ファイルに「品詞つなぎ」の文字がない場合は、パラメタを記述しない
シーケンス	エスケープシーケンスの解釈が必要であるかを指定。必要がある場合は ON、必要がない場合は OFF を指定



注・「読み区切り」から「単語識別」の間にある文字と、「単語識別」から「単語区切り」の間ある文字は無視されます。「読み区切り」と「読み無効」に同じ文字を指定することはできません。「単語区切り」と「単語無効」、「単語識別」と「単語無効」、「単語識別」と「単語区切り」でも、同様に同じ文字を指定することはできません。

書式データの例：

```
読み区切り=" "
読み区切り="\t"
読み区切り連続=OK
```

上記のように指定した場合、「空白文字」または「タブ文字」で、読みを区切りま

す。

図 7-1 に書式データと単語ファイルの対応例を示します。

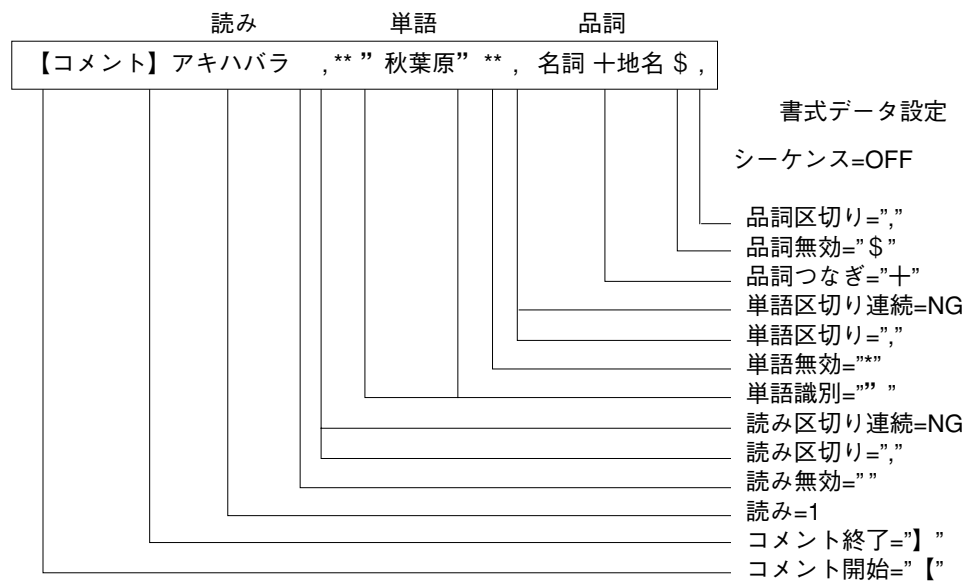


図 7-1 書式データと単語ファイルの対応例

ATOK8、ATOK7、cs00、VJE-Delta、EGBRIDGE の各書式データの設定は次のとおりです。

表 7-3 各日本語入力システムの書式データ設定一覧

キーワード	ATOK8	ATOK7 (初期設定)	cs00	VJE-Delta	EGBRIDGE
コメント開始	"!"	" ["	"#"	指定なし	"//"
コメント終了	指定なし	"] "	指定なし	指定なし	指定なし
読み	1	1	2	2	2
読み区切り	"/"	"/"	" "	「タブ文字」	「タブ文字」
読み区切り連続	NG	NG	OK	OK	NG
読み無効	" "	" "	指定なし	指定なし	指定なし
単語識別	"\" "	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
単語区切り	"/"、"	"/"	「タブ文字」	「タブ文字」	「タブ文字」
単語区切り連続	NG	NG	OK	OK	NG
単語無効	" "	" "	指定なし	指定なし	指定なし
品詞区切り	"/"	"/"	指定なし	"/"	「タブ文字」
品詞無効	"/" "*"	指定なし	指定なし	"/"	指定なし
品詞つなぎ	指定なし	指定なし	"/"	指定なし	"/"
シーケンス	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

## 品詞

単語ファイルで指定した辞書の品詞と Wnn6 での辞書の品詞の対応を示します。

品詞対応の書式は次のとおりです。

入力辞書の品詞,	Wnn6 の品詞
入力辞書の品詞,	Wnn6 の品詞
入力辞書の品詞,	Wnn6 の品詞
.	.

単語ファイルの品詞名称に対応する Wnn6 の品詞名称を、ASCII 文字 ";" で指定します。

■ 例：単語ファイル ATOK7 の場合

"一般名詞",	"名詞"
"固有名詞",	"固有名詞"
"名詞サ変",	"サ行(する)&名詞"
.	.

■ 例：単語ファイル VJE-Delta の場合

"【カ五】",	"カ行五段"
"【ガ五】",	"ガ行五段"
"【サ五】",	"サ行五段"
.	.

## Wnn6 テキスト形式辞書

Wnn6 で使用できるテキスト形式辞書です。

Wnn6 テキスト形式辞書の書式は、次のとおりです。

\comment			
\total			
\hinsi			
読み	単語	品詞	頻度
読み	単語	品詞	頻度
読み	単語	品詞	頻度
.	.	.	.

例：

\comment			
\total			
\hinsi			
あ	亜	単漢字	1
あ	あ	カ行五段	1
あ	あ	ワ行五段	1
あ	会	ワ行五段	1
あ	合	ワ行五段	1
あ	阿	単漢字	1
.	.	.	.
.	.	.	.

## ログファイル

単語情報の変換に失敗した単語を記録します。

ログファイルの書式は、次のとおりです。

変換できない行	←	エラー番号
変換できない行	←	エラー番号
変換できない行	←	エラー番号
.	.	.
.	.	.

「変換できない行」には、単語ファイル中の変換不可能な単語が存在する行が入ります。

エラー番号とその原因は表 7-4 のとおりです。

表 7-4 単語情報の変換 エラー番号と原因対応表

エラー番号	原因
1	「読み」の長さが 253 を超えている
2	「読み」の長さが 0
3	単語部分が識別できない。 書式データ：単語区切りなどを確認する
4	「単語」の長さが 253 を超えている
5	「単語」の長さが 0
6	単語識別が書式データと不適合
7	品詞部分が識別できない。 書式データ：品詞区切りなどを確認する
8	品詞が不適切
9	品詞定義の形式が不適合



## ATOK8 への移行

---

この章では、日本語入力システム ATOK7 または cs00 を利用していたユーザーが、ATOK8 に切り替える際に、以前の日本語入力環境をできるだけ維持するための手順や制約事項について説明します。

Solaris 上で ATOK7 を使用していたユーザーが ATOK8 へ移行する場合、ATOK7 の使用環境の一部を ATOK8 の使用環境に反映することができます。

ATOK7 から ATOK8 へ移行しても継続して使用できるのは、次の 3 点です。

- ATOK7 の辞書に登録した単語を ATOK8 で使用する
- ATOK7 のデフォルトに近いキー操作で ATOK8 を使用する
- ATOK7 で行なっていたカスタマイズの一部を ATOK8 に対しても行う

また、Solaris 上で cs00 を使用していたユーザーが ATOK8 へ移行する場合、cs00 用のユーザー辞書に登録した単語を利用することができます。

---

### ATOK7 の辞書に登録した単語を ATOK8 で利用する

atok8migd コマンドを使って、ATOK7 の辞書に登録した単語を ATOK8 で使用できる形式に変換し、ATOK8 の辞書とマージして使用することができます。

atok8migd は、ATOK7 システム提供時に辞書に含まれている単語はマージしないで、ユーザーが登録した単語だけを、ATOK8 の辞書にマージします。ATOK7 と ATOK8 の両方の辞書に登録されている単語を、ATOK7 の辞書からマージすること

はありません。なお、マージ元の ATOK7 の辞書の中身が、マージ処理によって破壊されたり変更されたりすることはありません。

atok8migd コマンドの形式は次のとおりです。

```
sun% atok8migd [-h xxx] atok7_dic atok8_dic
```

各引数は次のとおりです。

*atok7\_dic* : ATOK7の辞書ファイル。システム辞書とユーザー辞書のどちらでも指定でき、特に型を指定しなくても自動的に判別して処理します。

*atok8\_dic* : ATOK8 の辞書ファイル

*-h xxx* : 品詞指定。マージする単語を品詞によって限定します。品詞は ATOK7 の品詞番号で指定します。複数の品詞を指定する場合は + で区切ります。品詞番号については表 8-1 を参照してください。

atok8migd は、ja 以外のロケールで動作しません。atok8migd を ja ロケール以外の環境で実行する場合は、次のように LC\_CTYPE に ja を指定して実行してください。

```
sun% env LC_CTYPE=ja atok8migd atok7_dic atok8_dic
```



**注意** - atok8dicm コマンドや辞書メンテナンス用単語ファイルなどで使用する品詞番号とは異なりますので、注意してください。

品詞指定の例 :

1	一般名詞
2+3	固有名詞と名詞サ変
3+4+8+9	名詞サ変と名詞ザ変と連体詞と接続詞
all	すべての品詞 ( 1. 一般名詞 ~ 29. 副詞 )



表 8-1 ATOK7 の品詞番号と種類

1	一般名詞	2	固有名詞	3	名詞サ変
4	名詞ザ変	5	名詞形動	6	独立語
7	単漢字	8	連体詞	9	接続詞
10	感動詞	11	接頭語	12	接尾辞
13	数詞	14	カ行五段	15	ガ行五段
16	サ行五段	17	タ行五段	18	ナ行五段
19	バ行五段	20	マ行五段	21	ラ行五段
22	ワ行五段	23	一段動詞	24	カ変動詞
25	サ変動詞	26	ザ変動詞	27	形容詞
28	形容動詞	29	副詞		

詳細は、atok8migd(1) のマニュアルページを参照してください。

## ATOK7 のキー操作環境を ATOK8 で利用する

ATOK8 では、ATOK8 の標準キー操作の環境設定ファイル `atok8.ucf` と、ATOK7 のキー操作を好むユーザーのためにカスタマイズファイル `atok8.ucf.like7` を提供しています。`atok8.ucf.like7` をユーザーの環境にコピーすることで、ATOK7 に近い操作性を実現することができます。コピー方法は次のとおりです。



**注意** - `atok8.ucf.like7` ファイルは、キー操作の一部を ATOK7 に似せているだけであり、ATOK7 (Solaris 用) の操作環境すべてを同じにするものではありません。

1. 次のコマンドを入力します。

```
sun% cp /usr/openwin/lib/locale/ja/atok8/atok8.ucf.like7 \
$HOME/.atok8/atok8.ucf
```

`atok8.ucf.like7` がコピーされます。

注・ファイルをコピーした後、GUIの環境設定ツールを使って、操作環境をカスタマイズすることができます。詳細は、『ATOK8 ユーザーズガイド』を参照してください。

2. ウィンドウシステムを再起動します (または、ログインし直します)。  
以降、ATOK7 に似たキー操作を ATOK8 で行うことができます。

表 8-2 atok8.ucf と atok8.ucf.like7 のキー操作の違い

	機能名称	atok8.ucf	atok8.ucf.like7
8 <sup>1</sup>	部首変換	「 Shift-F6 」、 「 Alt- スペース」	「 Alt- スペース」
28	ファイル名全削除	「 Home 」キー、 「 Shift- Del 」	「 Shift- BS 」
47	単語登録開始	「 Ctrl- F6 」	「 Shift- F6 」
51	辞書ファイル変更	「 Ctrl- F8 」	「 Shift- F8 」
54	固定入力選択メニュー	「 Ctrl- F9 」	「 Shift- F9 」
55	句読点選択メニュー	「 Ctrl- F10 」	
62	変換辞書切り替え選択メニュー	「 Shift- F8 」	
66	固定入力英字順次 切り替え	「 Shift- 無変換」	
67	固定入力かな順次 切り替え	「 Ctrl- 無変換」	
83	全角無変換固定 (A) オン・オフ		「 Shift- 無変換」
85	英字入力 オン・オフ		「 F11 」キー

1. 機能名称の左にある番号は、環境設定ツールの機能からのカスタマイズで使用されている番号です。

## ATOK7 の環境設定ファイルを ATOK8 で利用する

ATOK7 の環境設定ファイル (resources) を修正してカスタマイズしている場合、ATOK8 でも同様の操作環境を設定できるものがあります。設定の有無と方法については表 8-3 ~ 表 8-6 を参照してください。

表 8-3 ATOK8 環境設定ツールでの設定項目 (直接対応する設定項目あり)

モード	環境設定ファイル内の記述		備考
	項目名	値	
変換モード (H)	*xci*atok7.config.H	0x2: 連文節変換 0x3: 自動変換 0x4: 単文節変換	「入力モード設定」ウィンドウの「漢字変換モード」で設定する
入力モード (M)	*xci*atok7.config.M	0x1: ローマ字漢字 (R 漢) 0x2: カナ漢字 (カナ漢) 0x100: 半角英字漢字 (R漢)	「入力モード設定」ウィンドウの「漢字入力モード」で設定する。ただし、半角英字漢字 (R 漢) モードに相当する設定を行う場合は、「入力モード設定」ウィンドウの「漢字入力モード」で「R 漢」を、「入力文字種」で「A(ア)」を選択する
コード体系 (C)	*xci*atok7.config.C	0x1: JIS 0x2: 区点 0x3: EUC 0x4: シフト JIS	「入力モード設定」ウィンドウの「コード体系」で設定する

表 8-3 ATOK8 環境設定ツールでの設定項目 (直接対応する設定項目あり) 続く

モード	環境設定ファイル内の記述		備考
	項目名	値	
学習 モード(S)	*xci*atok7.config.S:	0x0: 学習 off 0x1: 学習 on	「入力モード設定」ウィンドウの「辞書学習」で設定する。ATOK8の行う各種学習内容の設定は、「自動登録」でそれぞれについてオン・オフを選択できる
句読点 モード (K)	*xci*atok7.config.K: 0x1e	以下の組み合わせを、先頭に 0x を付けた 16 進数で表す。  位置 0 のとき 1 のとき  bit 0 ハイフン(-) 長音(-) bit 1 カンマ(,) 読点(、) bit 2 ピリオド(.) 句点(。) bit 3 角カッコ([ ]) かぎカッコ (「」) bit 4 スラッシュ(/) 中点(・)	「入力モード設定」ウィンドウの「句読点モード」で設定する。注意 - bit 0 ハイフン/長音の区分は ATOK7 では無効だったが、ATOK8 でも設定することはできない
送りがな モード (OKURI)	*xci*atok7.config.OKURI	0x0: 本則 0x1: 省く 0x2: 送る	「入力モード設定」ウィンドウの「送り仮名」で設定する

表 8-4 ATOK8 環境設定ツールでの設定項目 (直接対応する設定項目なし)

モード	環境設定ファイル内の記述		備考
	項目名	値	
ユーザー辞書パス名(USERDIC)	*xci*atok7.config. USERDIC	/var/mle/ja/atok7 /atok7usr.dic	<p>ATOK8 ではシステム辞書とユーザー辞書が一体となったため、個別の設定ではなく、環境設定ツールの「辞書ファイル設定」ウィンドウで複数辞書の選択機能を使って設定する。ATOK7 辞書ファイル名を直接指定することはできないが、あらかじめatok8migdを使用して ATOK8 の辞書とマージすることによって、ATOK7 の登録単語を移行して使用することができる</p>
システム辞書パス名(D)	*xci*atok7.config.D	/usr/lib/mle/ja/ atok7/atok7x1.dic	
ローマ字変換モード設定 (ROMAJIX)	*xci*atok7.config. ROMAJIX	0x0: ATOK ローマ字変換 0x1: 標準ローマ字変換	<p>ATOK8 の用意しているローマ字変換規則は 1 種類だが、環境設定ツールの「ローマ字カスタマイズ」ウィンドウでカスタマイズができる</p>

表 8-4 ATOK8 環境設定ツールでの設定項目 (直接対応する設定項目なし) 続く

モード	環境設定ファイル内の記述		備考
	項目名	値	
Intermリージョン初期状態キーバインド	*xci*atok7.bind. preedit.init		ATOK8 のキー割り当てでは ATOK7 の場合と体系が異なっているため、環境設定ツールの「キーカスタマイズ (“機能からのカスタマイズ” または “キーからのカスタマイズ”）」を用いて新たに設定する。なお、あらかじめ ATOK7 のデフォルトキーに近い割り当てに設定した環境設定ファイル (atok8.ucf.like7) をユーザーのディレクトリにコピーして、これをもとに必要に応じてカスタマイズを行うこともできる
Intermリージョン、Intermフィールド未変換状態キーバインド	*xci*atok7.bind *preedit.edit		
Intermリージョン、Intermフィールド変換状態キーバインド	*xci*atok7.bind *preedit.conv		

注・環境設定ツールの詳細については、『ATOK8 ユーザーズガイド』を参照してください。

表 8-5 環境設定ファイル (atok8.ucf) を直接編集する項目

モード	環境設定ファイル内の記述		備考
	項目名	値	
先読み解析モード (PREREAD)	*xci*atok7.config. PREREAD	0x0: 先読み解析する 0x1: 先読み解析しない	環境設定ファイル atok8.ucf の項目「PREREAD」を変更する
ATOK の横一列の次候補表示(JIKOHO)	*xci*atok7.config. JIKOHO	0x0: 表示有効 0x1: 表示無効	環境設定ファイル atok8.ucf の項目「KOHOTMG」を変更することにより、候補ウィンドウを表示するまでの変換回数を指定できる。表示されないように設定することはできないが、最大値の 254 に設定することで動作を擬似的に表示無効のようにさせることはできる

注 - 環境設定ファイルの詳細については、『ATOK8 ユーザーズガイド』を参照してください。

表 8-6 ATOK8 環境設定ツールで項目の設定ができないもの

モード	環境設定ファイル内の記述		備考
	項目名	値	
入力サーバー (htt) とかな漢字変換サーバー (atok7) 間の通信パラメタ	*xci*atok7.connect.type *xci*atok7.connect.hostName *xci*atok7.connect.rpc.program *xci*atok7.connect.rpc.version	RPC localhost 160001 1	ATOK8 は両方の機能を統合し、左記のパラメタを使用していたプロセス間通信を廃止したため、設定の必要はなくなった
記号モード表示(KIGOU)	*xci*atok7.config.KIGOU	0x0: 1行固定表示 0x1:カスタマイズ表示	記号モード表示・メニュー表示・候補選択の複数行表示機能は ATOK8 では提供されない。記号モード・メニュー表示・候補選択でのキー操作の割り当てについては、環境設定ツールの機能からのカスタマイズで設定する
メニュー表示 (MENU)	*xci*atok7.config.MENU	0x0: 1行固定表示 0x1:カスタマイズ表示	
Selection リージョン、Selection フィールド初期状態キーバインド	*xci*atok7.bind *lookup.init		
Selection リージョン、Selection フィールド選択中状態キーバインド	*xci*atok7.bind *lookup.choice		



## cs00 の辞書に登録した単語を ATOK8 で利用する

cs00toatok8 は、cs00 のユーザー辞書を ATOK8 で利用するための変換フィルタです。このフィルタを使用して、cs00 のユーザー辞書から得られる単語リストのファイルを、ATOK8 の辞書に一括登録することができます。

次に、この変換手順を説明します。

1. **udicm**、**sdtudicm** (**Solaris CDE** 上の場合)、または **udicmtool** (**日本語 OpenWindows** 上の場合) を用いてユーザー辞書から単語リストのファイルを作成します。

- **udicm** を使用する場合  
次を実行します。

```
sun% udicm show cs00_u.dic > cs00_u.list
```

*cs00\_u.list* には cs00 のユーザー辞書名を、*cs00\_u.list* には単語リストのファイル名をそれぞれ指定します。

- **sdtudicm** または、**udicmtool** を使用する場合  
『**cs00 ユーザーズガイド**』を参照してください。

2. **cs00** の単語リストのファイルを **ATOK8** の辞書メンテナンスで使用するテキスト形式の単語ファイルに変換します。

```
sun% cs00toatok8 cs00_u.list > atok8.list
```

*cs00\_u.list* には手順 1 で得られた cs00 の単語リストのファイル名を、*atok8.list* には ATOK8 のテキスト形式の単語ファイルのファイル名を指定します。

3. **ATOK8** 辞書メンテナンスツールを使用して、手順 2 で得られたファイルの内容を **ATOK8** の辞書に登録します。
  - a. **ATOK8** のアイコンをダブルクリックして **ATOK8** ウィンドウを呼び出し、**ATOK8** ウィンドウの「辞書ツール」ボタンを押します。
  - b. **ATOK8** 辞書メンテナンスツールの「一括登録」ボタンを押します。一括登録のウィンドウでは、次の例を参考にして入力します。

- 辞書ファイル名: `/home/user/.atok8/atok8you.dic`
- 単語ファイル名: `/home/user/atok8.list`
- 未登録単語ファイル名: `/home/user/atok8usr.unreg`
- 未登録単語ファイル作成: する

`atok8.list` には手順 2 で指定した ATOK8 のテキスト形式の単語ファイルのファイル名を指定します。

`/home/user` には、ユーザーのホームディレクトリを指定します。

`atok8you.dic` には、ユーザー登録用の辞書を指定します。

- c. 「適用」ボタンを押します。  
これで、登録は完了です。

詳細は、『ATOK8 ユーザーズガイド』を参照してください。

## 入力サーバーの入カスタイルの設定

---

### スタイルの設定

ユーザーは、日本語入力時に次の表示スタイルを選択することができます。

- 前編集 (preedit) スタイル
- 状態表示 (status) スタイル

設定できるスタイルはツールキットによって異なります。表 A-1 を参照してください。この章では、日本語入力サーバー ATOK8 を使用した実例をもとに説明します。

---

注 - 表 A-1 で使用している記号は以下のものを使用しています。

◎ : デフォルト、○ : 有効、× : 無効

---

表 A-1 ツールキット別有効スタイル表

	前編集 [Preedit]				状態表示 [Status]		
	Callbacks	Position	Area	Nothing	Callbacks	Area	Nothig
XView™	◎	○	×	○	◎	○	○
OLIT	◎ <sup>1</sup>	○	×	○	×	◎ <sup>1</sup>	○
Motif®	×	◎	○	○	×	◎	○

1. これらは真の OLIT のデフォルトの表示スタイルではなく、XView のデフォルトの表示スタイルに最も近いものを示します。OLIT のデフォルトの表示スタイルは入力文字やモード文字列を表示しないスタイル (PreeditNone および StatusNone) です。これらのスタイルはかな漢字変換を用いる日本語の入力にはあまり適さないため、各 OLIT アプリケーションは OLIT のデフォルトとは別に他のいずれかのスタイルをアプリケーションのデフォルトとして指定している場合が多いと考えられます。どのスタイルをデフォルトとするかは個々のアプリケーションに依存しますが、XView のデフォルト表示スタイルに最もちかづけることができるスタイルが PreeditCallbacks および StatusArea です。なお、PreeditNone および StatusNone は ATOK8 ではサポートされていません。

注 - XView と OLIT の場合は、前編集スタイルと状態表示スタイルを個別に選択することが可能です。したがって、XView では 9 通り、OLIT では 6 通りの組み合わせが指定できます。

## 前編集 (preedit) スタイル

### 前編集 (preedit) スタイルの違い

キーボードから入力した文字を画面に表示する方法として、次の 4 つのスタイルが用意されています。

- PreeditCallbacks 入力スタイル (onTheSpot)
- PreeditPosition 入力スタイル (overTheSpot)
- PreeditArea 入力スタイル (offTheSpot)

■ PreeditNothing 入力スタイル (rootWindow)

次に、各スタイルについて説明します。

---

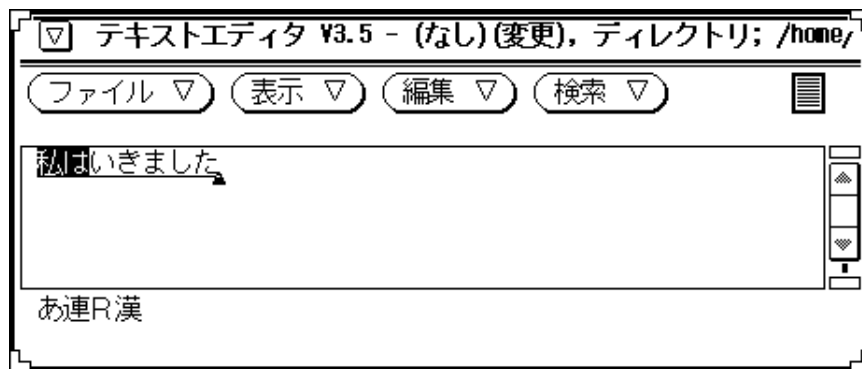
注 - offTheSpot 以外は XView デスクセットを例に説明します。

---

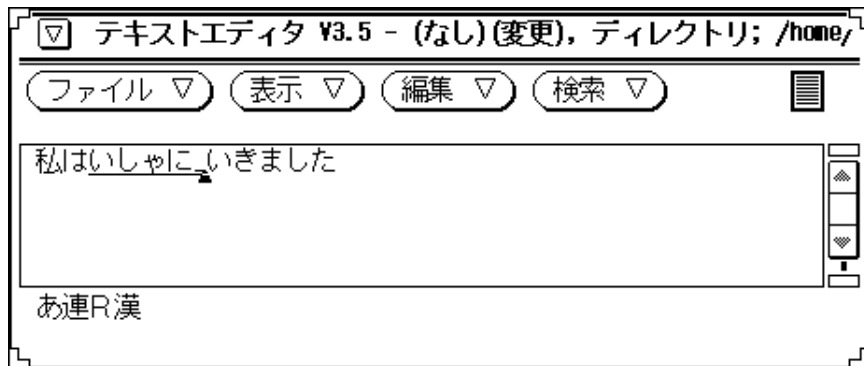
**PreeditCallbacks** 入力スタイル (*onTheSpot*)

ウィンドウの入力フィールドに、入力した漢字かな交じり文が直接表示されます。編集時に文字を挿入すると、ウィンドウ上のデータも同時に移動します。ワードプロセッサやテキストエディタを使った一般的な編集作業に使用される入力方法です。

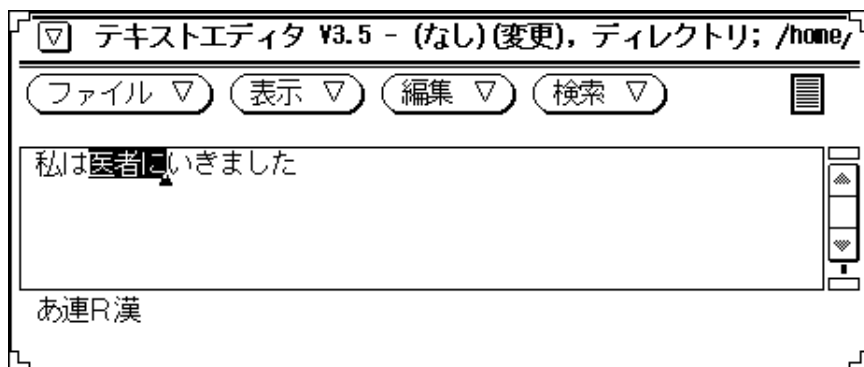
1. 入力・変換を行い、確定します。



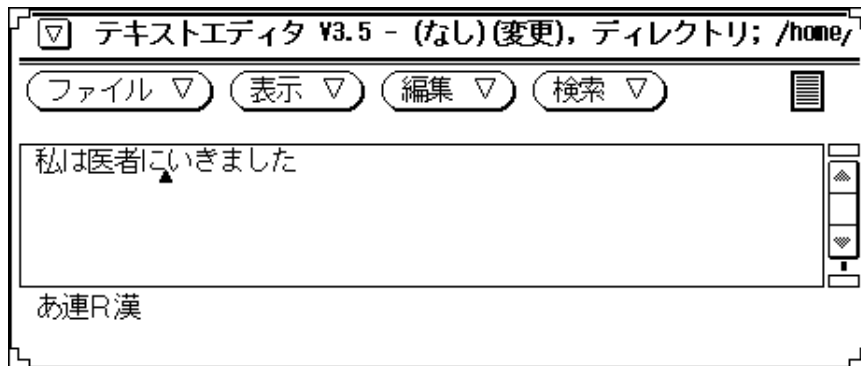
2. 確定文字列に挿入する形で入力を行うと、入力した前編集文字列が確定文字列の途中に表示され、以降の確定文字列が移動します。



3. 変換によって前編集文字列の長さが変化した場合も、それに応じて以降の確定文字列が移動します。



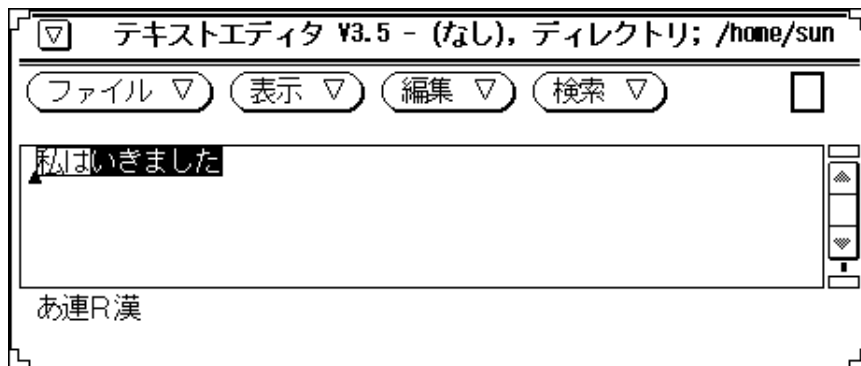
4. 確定します。



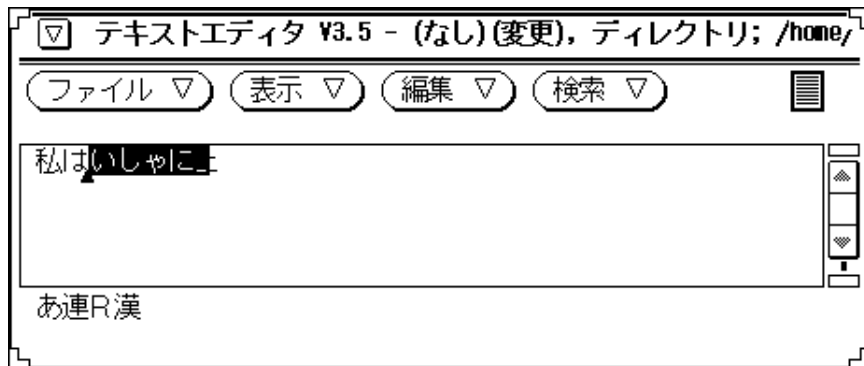
### **PreeditPosition** 入力スタイル (*overTheSpot*)

ウィンドウの入力フィールドに、変換用の領域が重なって表示され、そのなかに入力した漢字かな交じり文が表示されます。PreeditCallbacks 入力スタイルに近いユーザーインターフェースを持っていますが、編集時に文字を挿入してもウィンドウ上のデータは移動しません。

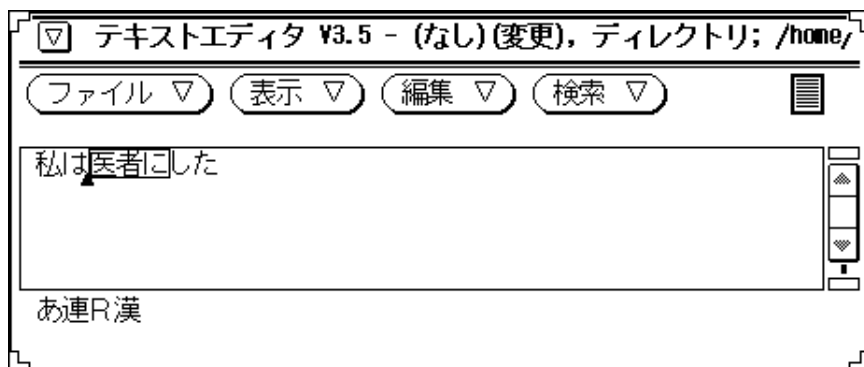
1. 入力・変換を行い、確定します。



2. 確定文字列に挿入する形で入力を行うと、入力した前編集文字列が確定文字列の途中に表示されます。しかし、前編集文字列は確定文字列に重なる形で表示され、以降の確定文字列は移動しません。

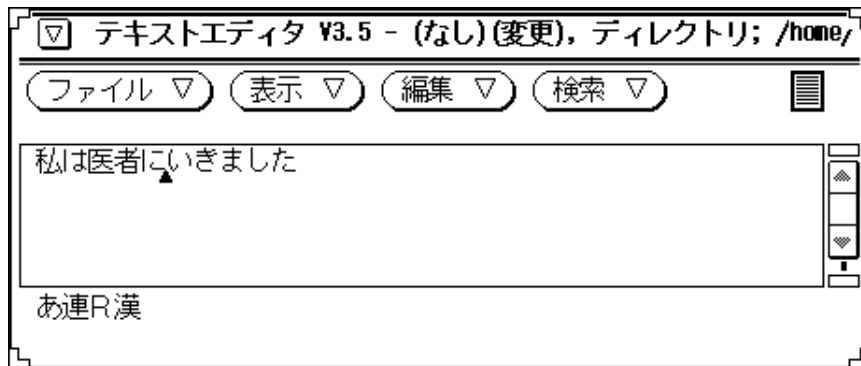


3. 変換によって前編集文字列の長さが変化した場合も、以降の確定文字列は移動しません。



4. 確定すると、はじめて文字列が挿入され、以降の確定済文字列が移動します。

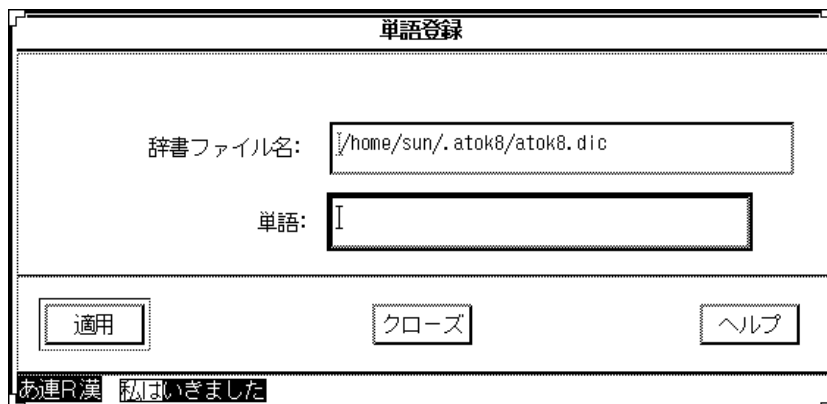




### **PreeditArea** 入力スタイル (*offTheSpot*)

ウィンドウの入力フィールドではなく、その下の部分に入力用領域が表示され、変換操作を行います。確定時、入力フィールドのカーソル位置に、入力した漢字かな交じり文が表示されます。

1. 入力・変換を行い、確定します。表示は実際に入力しようとしている入力フィールドとは別の領域で行われます。



2. 確定文字列は入力フィールドに移ります。その後、確定文字列に挿入する形で入力を行なった場合も、前編集文字列はウィンドウ最下部に表示されます。確定文字列の表示に変化はありません。

単語登録

辞書ファイル名: /home/sun/.atok8/atok8.dic

単語: 私いきました

適用 クローズ ヘルプ

あ連R漢 いしやに

3. 変換によって前編集文字列の長さが変化した場合も、入力フィールドの確定文字列に変化はありません。

単語登録

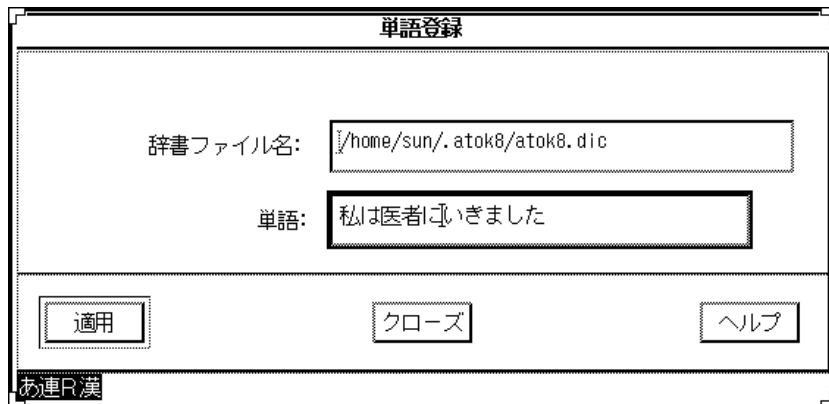
辞書ファイル名: /home/sun/.atok8/atok8.dic

単語: 私いきました

適用 クローズ ヘルプ

あ連R漢 医者

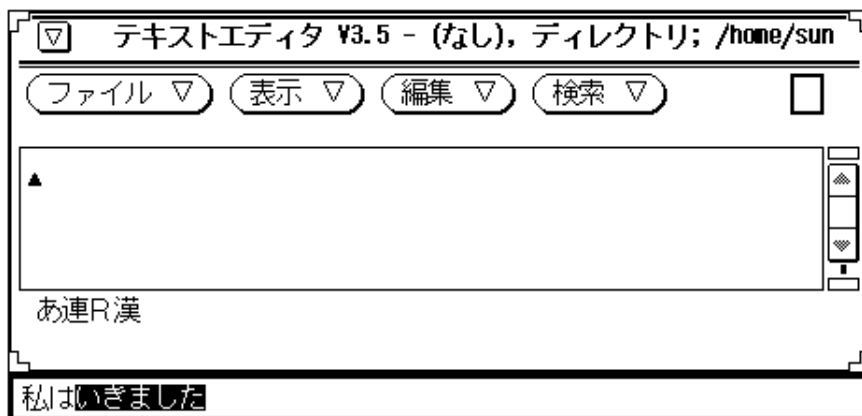
4. 確定すると、はじめて文字列が挿入され、以降の確定済文字列が移動します。



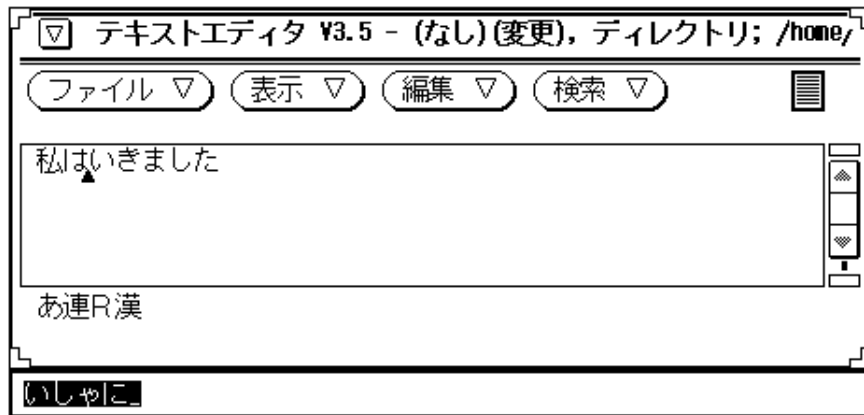
### **PreeditNothing** 入力スタイル (*rootWindow*)

ウィンドウの入力フィールドではなく、その外側の下の部分に入力用領域を作成し、変換操作を行います。確定時、入力フィールドのカーソル位置に、入力した漢字かな交じり文が表示されます。

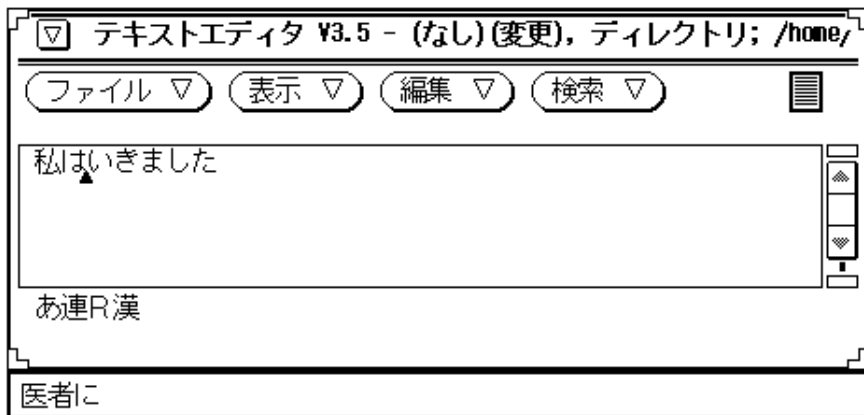
1. 入力・変換を行い、確定します。表示は実際に入力しようとしている入力フィールドとは関係なく、ウィンドウの外側に用意された別の領域で行われます。



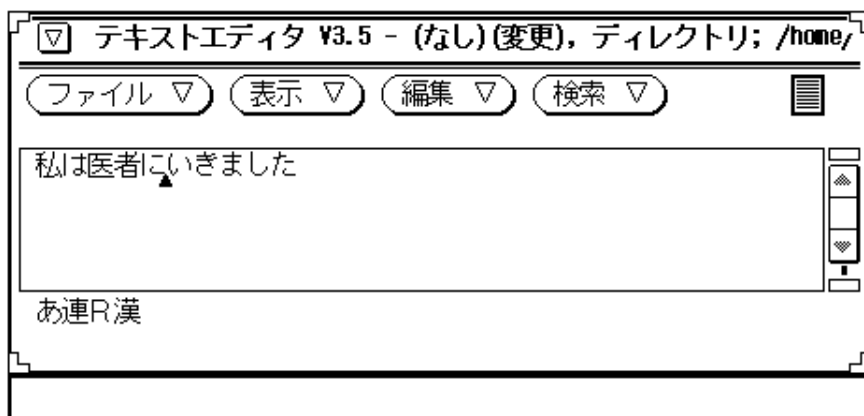
2. 確定文字列は入力フィールドに移ります。その後、入力フィールド内で確定文字列に挿入する形で入力を行なった場合も、前編集文字列はウィンドウ外側の別の領域で行われます。確定文字列の表示に変化はありません。



3. 変換によって前編集文字列の長さが変化した場合も、入力フィールドの確定文字列に変化はありません。



4. 確定すると、はじめて文字列が挿入され、以降の確定文字列が移動します。



## 前編集スタイルの指定方法

前編集スタイルの指定方法は、アプリケーションごとに異なります。



**注意 - 注意** - この項では一般的なスタイルの指定方法を記述します。アプリケーションによっては、同じツールキットを使用している場合でも使用方法が異なる場合があります。

### **XView** アプリケーション

次の2つの方法があります。

- テキストエディタ (textedit) やメールツール (mailtool) などのテキストウィンドウを起動する場合にオプションで切り替えます。

例:

```
sun% textedit -preedit_style onTheSpot
```

onTheSpot の代わりに overTheSpot、rootWindow を指定することができます。

- ホームディレクトリにあるリソースファイル(\$HOME/.Xdefaults)に次の前編集スタイルの記述を加えます。

注 - 通常、コマンドの起動オプションがリソースファイルの記述より優先されます。

```
OpenWindows.ImPreeditStyle: onTheSpot
```

onTheSpot の代わりに overTheSpot、rootWindow を指定することができます。

### **OLIT** アプリケーション

次の2つの方法があります。

- テキストウィンドウを起動する場合にオプションで切り替えます。指定方法・書式はアプリケーションに依存します。
- ホームディレクトリにあるリソースファイル(\$HOME/.Xdefaults)に次の前編集スタイルの記述を加えます。

注 - 通常、コマンドの起動オプションがリソースファイルの記述より優先されます。

```
<上位のクラスまたは名前>*ImPreeditStyle: onTheSpot
```

onTheSpot の代わりに overTheSpot、rootWindow を指定することができます。なお、「上位のクラスと名前」はアプリケーションに依存します。

### **Motif** アプリケーション

次の2つの方法があります。

- テキストウィンドウを起動する場合にオプションで切り替えます。指定方法・書式はアプリケーションに依存します。
- ホームディレクトリにあるリソースファイル(\$HOME/.Xdefaults)に次の前編集スタイルの記述を加えます。

注 - 通常、コマンドの起動オプションがリソースファイルの記述より優先されます。

```
<上位のクラスまたは名前>*PreeditType: OverTheSpot
```

OverTheSpot の代わりに OffTheSpot、Root を指定することができます。  
なお、「上位のクラスと名前」はアプリケーションに依存します。

## 状態表示 (Status) スタイル

### 状態表示 (Status) スタイルの違い

対象入力文字や変換文字種類などのモードを表示する方法として、次の3つのスタイルが用意されています。

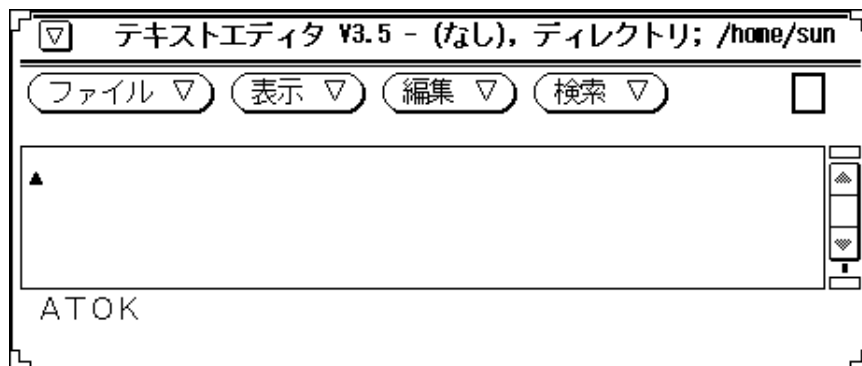
- StatusCallbacks スタイル (clientDisplays)
- StatusArea スタイル (imDisplaysInClient)
- StatusNothing スタイル (imDisplaysInRoot)

次に、各スタイルについて説明します。

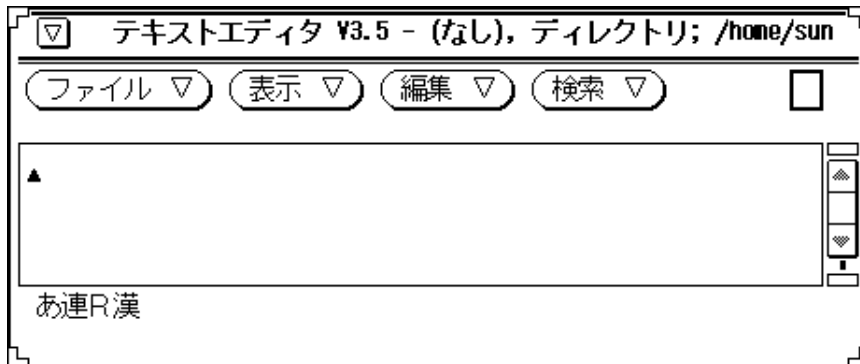
### Status (clientDisplays)

入力対象となるウィンドウの左下に現在のモード状態が表示されます。

- 日本語入力モードがオフの場合は、文字列「ATOK」が表示されます。



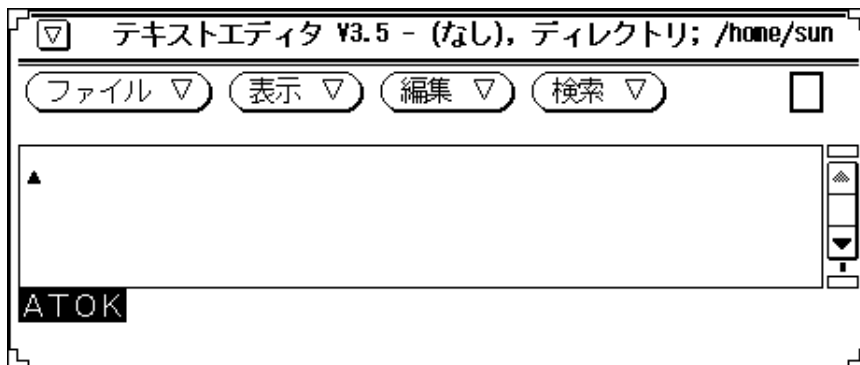
- 日本語入力モードをオンにすると、モード状態を示す文字列に変わります。



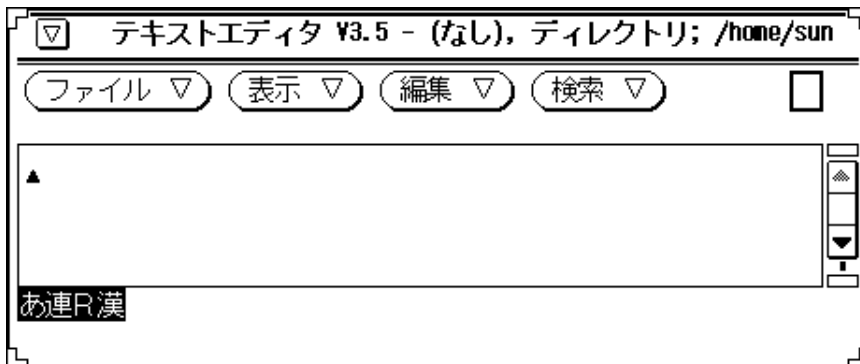
### **StatusArea (imDisplaysInClient)**

入力対象となるウィンドウの左下に現在のモード状態が表示されます。

- 日本語入力モードがオフの場合は、文字列「ATOK」が表示されます。



- 日本語入力モードをオンにすると、モード状態を示す文字列に変わります。





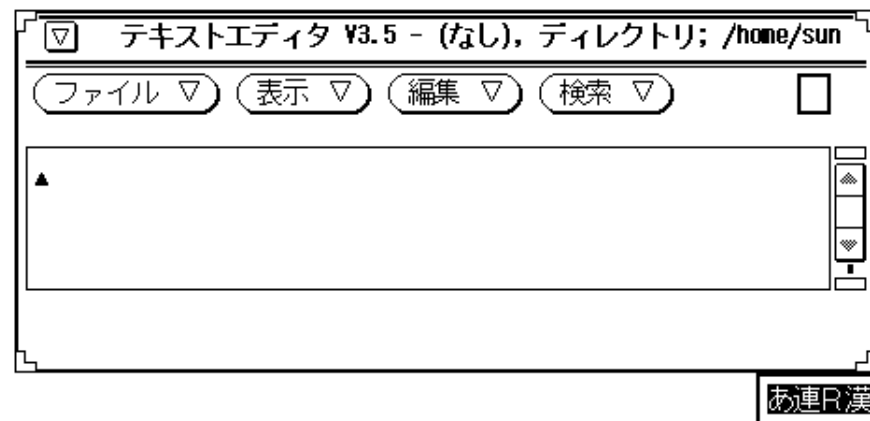
## StatusNothing (imDisplaysInRoot)

入力対象となるウィンドウの外側に現在のモード状態が表示されます。

- 日本語モードがオフの場合は、モード状態の表示はありません。



- 日本語入力モードをオンにすると、モード状態を示す文字列がウィンドウの外側の領域に表示されます。



## 状態表示スタイルの指定方法

状態表示スタイルの指定は、アプリケーションごとに異なります。



注意 - この項では一般的なスタイルの指定方法を記述します。アプリケーションによっては同じツールキットを使用している場合でも使用方法が異なる場合があります。

## **XView** アプリケーション

次の2つの方法があります。

- テキストエディタ (textedit) やメールツール (mailtool) などのテキストウィンドウを起動する場合にオプションで切り替えます。

例:

```
sun% textedit -status_style clientDisplays
```

clientDisplays の代わりに imDisplaysInClient、 imDisplaysInRoot を指定することができます。

- ホームディレクトリにあるリソースファイル (\$HOME/.Xdefaults) に次のモードの状態表示スタイルの記述を加えます。

---

注 - コマンドの起動オプションがリソースファイルの記述より優先されます。

---

```
OpenWindows.ImStatusStyle: ClientDisplays
```

clientDisplays の代わりに imDisplaysInClient、 imDisplaysInRoot を指定することができます。

## **OLIT** アプリケーション

次の2つの方法があります。

- テキストウィンドウを起動する場合にオプションで切り替えます。指定方法・書式はアプリケーションに依存します。
- ホームディレクトリにあるリソースファイル (\$HOME/.Xdefaults) に次のモードの状態表示スタイルの記述を加えます。

```
<上位のクラスまたは名前>*ImStatusStyle: imDisplaysInClient
```

imDisplaysInClient の代わりに imDisplaysInRoot を指定することができます。なお、「上位のクラスと名前」はアプリケーションに依存します。

## **Motif** アプリケーション

Motif では状態表示スタイルを明示的に指定する方法はありません。



# 索引

## A

- Aa 変換 29
- AI 変換機能 35
- Artificial Intelligence 35
- ATOK7 79, 95
  - ATOK7 辞書形式 82
  - Intermリージョン 102
  - Selectionリージョン 104
  - 学習モード(S) 100
  - 記号モード表示 104
  - 句読点モード(K) 100
  - コード体系(C) 99
  - 先読み解析モード 103
  - 次候補表示 103
  - システム辞書パス名(D) 101
  - 書式データ設定一覧 90
  - 書式ファイル 85
  - 通信パラメタ 104
  - 入力モード(M) 99
  - 変換モード(H) 99
  - メニュー表示 104
  - ユーザー辞書パス名 101
  - 横一列 103
  - ローマ字変換モード設定 101
- atok7-wnn6.fmt 85
- ATOK7 辞書形式 82
- ATOK7 用書式ファイル 85
- ATOK8 15, 16, 18, 60, 73, 79
  - ATOK8 辞書形式 82
  - 移行 95
  - 概要 35
  - カスタマイズ 36
  - 使用環境のセットアップ 57
  - 書式データ設定一覧 90
  - 書式ファイル 85
  - ファイル構成 59
- atok8conftool 60
- atok8conftool.hlp 61
- atok8.dic 60, 62
- atok8dicm 60
- atok8dictool 60
- atok8dictool.hlp 61
- atok8.hlp 61
- atok8.ucf.like7 60
- atok8migd 60, 73
- atok8setup 60
- atok8tkj.dic 60, 62
- atok8.ucf 60, 62, 97
- atok8.ucf.like7 97
- atok8-wnn6.fmt 85
- atok8wordreg 60
- atok8you.dic 60, 62
- ATOK8 の概要 35
- ATOK8 用書式ファイル 85
- ATOK12 15, 18
  - 移行 73
  - 概要 19
  - 使用環境のセットアップ 41
  - ファイル構成 43
- atok12migd 73
- atok12migs 75
- atok12setup 41
- atok8migd 95

## B

bunsetsu 55  
bushu.dic 53  
bushu.dic.no\_JISX0202 53  
bushu.fzk 53

## C

clientDisplays 119  
cm 16, 17  
config 66  
cs00 15, 16, 19, 67, 73, 79, 95  
    cs00 辞書形式 83  
    概要 38  
    クライアント / サーバー方式 38  
    使用環境のセットアップ 63  
    書式データ設定一覧 90  
    書式ファイル 85  
    ファイル構成 65  
cs00-wnn6.fmt 85  
cs00.sh 67  
cs00setup 67  
cs00toatok7 105  
cs00toatok8 76, 77, 105  
cs00\_m.dic 66  
cs00 辞書形式 83  
cs00 の概要 38  
cs00 用書式ファイル 85  
csdef 66  
cssd 65  
cvt\_key\_tbl 52  
cvt\_xim\_tbl 52

## D

default 60, 61  
VJE-Delta 辞書形式 84  
\*.dic 53  
dpkeyallow 51  
dpkeylist 51  
dpkeyserv 52  
dpkeyservlist 51  
dpkeystat 52

## E

EGBRIDGE 79  
    EGBRIDGE 辞書形式 84

書式データ設定一覧 90  
書式ファイル 85

egbridge-wnn6.fmt 85  
EGBRIDGE 辞書形式 84  
EGBRIDGE 用書式ファイル 85  
eisuu.ccv 66

## F

fisd 53  
fiud 55  
FI 学習 24, 31  
FI 学習機能 24  
FI 関係辞書 24, 26  
FI 関係用例 25  
FI 変換 24, 26  
\*.fmt 53  
\*.fzk 53

## G

GUI ユーティリティ 25

## H

\*.h 55  
hinsi.data 52  
hiragana.ccv 66  
HOME 59  
htt 16  
h\_eisuu.ccv 66  
h\_katakana.ccv 66

## I

iconv 80  
imDisplaysInClient 120  
imDisplaysInRoot 121

## J

JSat8xw 59  
JSatsvr 43  
JSatsvu 43  
JSatsvw 43  
jserver 16, 18, 33, 52  
jserverrc 51, 56  
jserver\_dir 56

## K

K15Wnn6 51  
katakana.ccv 66  
keybind 66  
keyword 66

## L

LC\_CTYPE 59  
libmle 16, 18, 66

## M

mdicm 67  
mle 18, 66  
mle コマンド 16  
mode 52  
Motif 108, 118, 123  
muhenkan 55

## O

offlinerc 51  
offTheSpot 113  
OLIT 108, 118, 122  
onTheSpot 108  
overTheSpot 111

## P

preedit 107, 108  
PreeditArea 113  
PreeditCallbacks 108  
PreeditNothing 115  
PreeditPosition 111

## R

resources 66  
rootWindow 115

## S

S94Wnn6 51  
S509Wnn6 55  
S549atok8 61  
S599cs00 67  
Sdtudicm 68  
sdtudicm 68, 76, 105

Sdtudicm.info 68  
serverdefs 51  
setdic 57  
setfuzokugo 56  
sethindopath 56  
setjishopath 56  
Solaris CDE 15  
Solaris 共通デスクトップ環境 15  
status 107  
Status 119  
StatusArea 120  
StatusCallbacks 119  
StatusNothing 121

## T

tty 環境 16

## U

ud 55  
udicm 67, 76, 80, 105  
udicmtool 67, 76, 105  
udicmtool.info 67  
udmerge 53  
udmergerc 51  
uum 18, 33, 51  
uumkey 52  
uumrc 52, 56  
uum コマンド 16

## V

VJE-Delta 79  
    VJE-Delta 辞書形式 84  
    書式データ設定一覧 90  
    書式ファイル 85  
VJE-Delta 用書式ファイル 85  
vje-wnn6.fmt 85

## W

Wnn6 15  
Wnn6  
    Wnn6 設定ユーティリティ 34  
    移行 79  
    概要 24  
    カスタマイズ 34

クライアント / サーバー方式 24  
辞書コンバータ 51  
辞書の追加 24  
システムのディレクトリ構成 49  
システムのファイル一覧 51  
使用環境のセットアップ 47  
テキスト形式辞書 91  
ファイル構成 49  
Wnn6.bitmap 54  
Wnn6/Htt 33, 34  
wnn6setup 47  
Wnn6 辞書ユーティリティ 81  
Wnn6 システムのディレクトリ構成 50  
Wnn6 システムのファイル一覧 51  
Wnn6 テキスト形式辞書 91  
Wnn6 の概要 24  
Wnn6 の構成 33  
Wnn6 のシステム構成 34  
Wnn6 ライセンスサーバー 51  
wnnaccess 55  
wnnatod 51  
Wnnbushu 54  
wnnbushu 54  
wnndictutil 34  
Wnnndictutil 54  
wnndictutil 81  
wnnds 33  
wnndtoa 51  
wnnenvrc 53, 56  
wnnenvutil 34  
Wnnenvutil 54  
wnnenvutil 54  
wnnenvutil.hlp 55  
wnnhosts 51  
wnnkill 55  
wnnoffline 52  
wnnotow 34, 51, 80  
wnnstat 51  
wnntouch 52  
wnnudmerge 52

**X**  
xci 16, 17, 66  
ximrc 52  
xjsi 16, 17  
xjsi.so 55  
XMODIFIERS 42, 59

XView 108, 117, 122

い

異形字処理 30

移行

Wnn6 への移行 79

ATOK8 への移行 73, 95

ATOK12 への移行 73

う

ウィンドウ環境 16

受身変換 27

え

英単語日本語変換 30

お

送りがな基準学習 32

送りがな基準処理 29

オフライン学習 24, 33, 51

か

格係り受け変換 26

学習機能 31

カスタマイズ 34, 36

かな / カナ / ローマ字変換 31

かな漢字変換機能 26

かな漢字変換サーバー 15, 52

かな漢字変換サーバー・インタフェースモ  
ジュール 15, 17

カラー表示のサポート 36

環境設定ファイル 59, 75, 99

resources 99

き

キーバインド 25

キーバインド定義 53

く

クライアント / サーバー方式



cs00 38

こ

合成語変換 27  
固定形式 25  
コメント開始 87  
コメント終了 87  
固有名詞の分類 35

さ

最終使用最優先変換 29

し

シーケンス 88  
使役変換 27  
辞書 25  
辞書コンバータ 34  
辞書引きサーバー 52  
辞書ファイル 59  
辞書ファイルメンテナンスツール 15  
辞書ユーティリティ 34, 54  
システム辞書  
語彙数 25  
修飾語変換 28  
使用環境のセットアップ  
ATOK8 57  
ATOK12 41  
cs00 63  
状態表示 121  
状態表示スタイル 107, 119  
StatusCallbacks 119  
StatusNothing 121  
書式データ 86, 89  
書式データ設定一覧 90  
書式ファイル 85  
所有格変換 26

す

数字学習 32  
スタイルの設定 107

せ

接頭語学習 32  
接尾語学習 32

た

単漢字変換 29  
単語区切り 88  
単語区切り連続 88  
単語識別 88  
単語ファイル 81  
単語無効 88

ち

注目文節の移動 37  
長音変換 29

て

電話番号変換 30

と

登録可能形式 25  
登録語自動反映 32, 51

に

日本語 OpenWindows 15  
日本語入力 15  
日本語入力システム 16  
デフォルト 47, 57, 63  
入力サーバー 15, 16  
入力スタイル 25

ひ

表示スタイル 107  
品詞 90  
品詞区切り 88  
品詞つなぎ 88  
品詞無効 88  
頻度学習 31  
頻度情報 25

ふ

ファイル形式 81  
ファイル構成  
ATOK8 59  
cs00 65  
ファイル構成

ATOK12 43  
複合語変換 28  
複数辞書引き 35  
複文変換 28  
文節間接続関係辞書 24, 26  
文節切り学習 32

へ

変換機能  
大文字・小文字の変換機能 37  
未登録語のカタカナ変換機能 37  
変換時の単語削除機能 36

ほ

補助漢字対応 38

ま

前編集スタイル 107, 108  
PreeditArea 113  
PreeditCallbacks 108  
PreeditNothing 115  
PreeditPosition 111  
前編集スタイルの指定方法 117

む

無変換学習 32

ゆ

ユーザーが登録した単語情報 79

ユーザー辞書 25, 55, 66  
ユーザー辞書ファイル 34  
郵便番号変換 30  
揺らぎ処理 29

よ

読み 87  
読み区切り 87  
読み区切り連続 88  
読み無効 88

れ

連濁処理 31

ろ

ログファイル 92

わ

ワークスペースメニュー  
ATOK8 57  
ATOK8 に設定... 57  
ATOK12 41  
ATOK12 に設定... 41  
cs00 63  
cs00(htt) に設定... 63  
Wnn6 47  
Wnn6 (htt) に設定... 47